

# 令和7年度 群馬県幸福度レポート



*Gunma  
well-being report  
2025*

# 0. はじめに

# G VISION 2040

2040年に  
群馬県が  
目指す姿

年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、  
誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、  
幸福を実感できる自立分散型の社会

群馬県は、2040年に目指す姿を「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会」として描いた「新・群馬県総合計画（ビジョン）」を令和2年12月に策定しました。

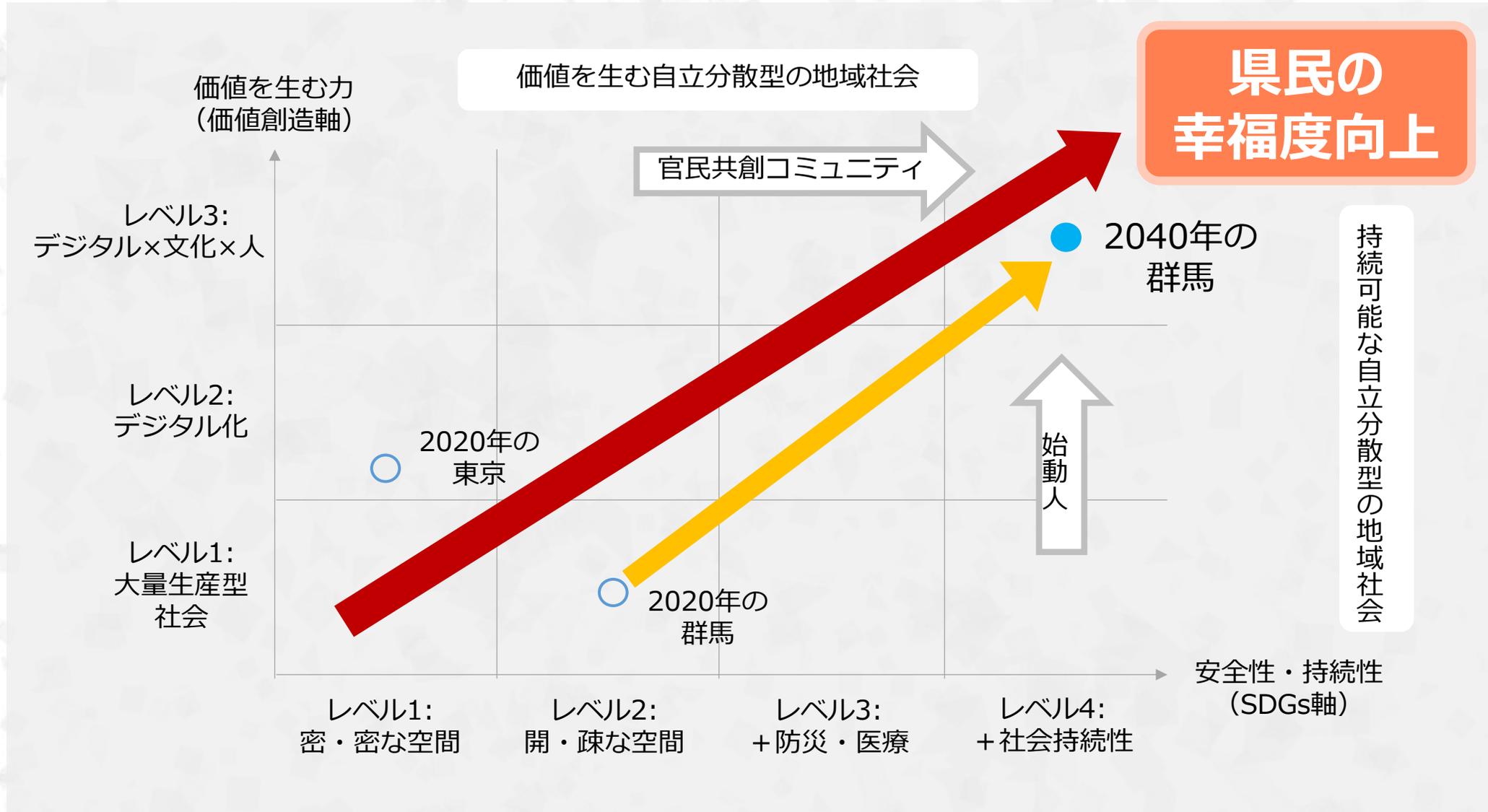
ビジョンでは、ニューノーマルが群馬県の強みになると積極的に捉えて、2040年の目指す姿を描きました。目指す姿のポイントは、「誰一人取り残さない」こと、「幸福を実感できる」こと、そして「自立分散型の社会」であることです。

群馬県では、県が目指す「幸福」とは何かをお伝えするとともに、幸福度を指標化することで現状を「見える化」し、県の政策に活用し、その結果を発信することを目的に、令和3年度より「群馬県幸福度レポート」を作成しています。



The image shows a screenshot of the G VISION 2040 website on the left, featuring the logo and the text '新・群馬県総合計画'. Below the website is a QR code. On the right is a promotional video for Gunma, showing a cityscape with the word 'GUNMA' overlaid. Below the video is another QR code and the text '群馬県公式動画サイト「tsulunos」『innovate in GUNMA with us』群馬県の魅力を動画で紹介しています。'.

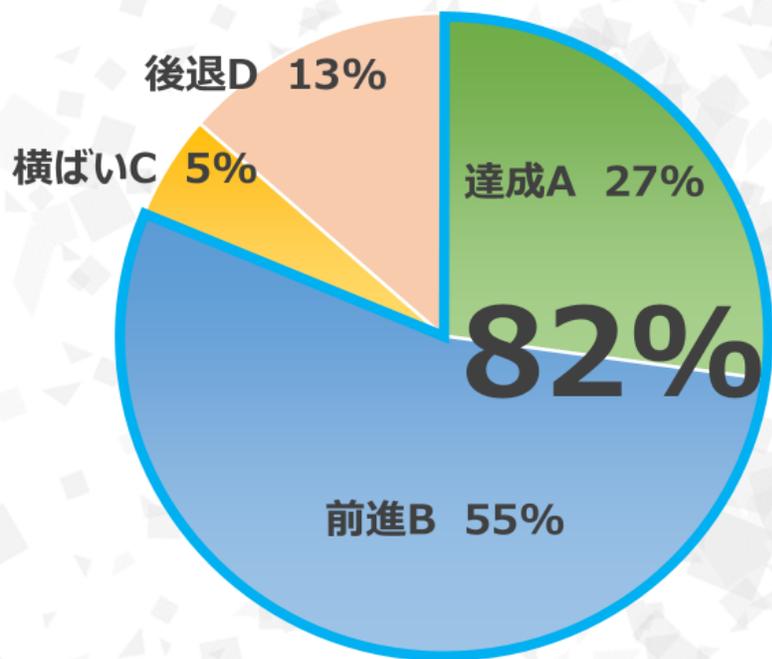
## 0.1 総合計画における幸福度向上





## 「新・群馬県総合計画」4年目（2024年度）の評価検証結果

2024年度（KPI実績）



### ■ 進捗状況

- 【達成A】 実績値が目標値を上回り、達成した状態
- 【前進B】 実績値が目標に向かい、基準値（策定時）から前進している状態
- 【横ばいC】 実績値が基準値（策定時）から変動が見られない状態
- 【後退D】 実績値が基準値（策定時）の数値より後退している状態

※割合（%）は未確定を除く【達成A】～【後退D】の小計を分母としている

### 総括

## 進捗状況は、概ね良好

有識者意見も踏まえ、引き続き、目標達成に向けさらなる取組を進めていく。後退したKPIについては、要因分析を行った上で、その解決に向けた取組を進めていく。

- 59のKPIについて、調査時点での直近の実績値を元に**評価検証**を実施
- KPI全体の進捗状況は、「**達成A**」+「**前進B**」の割合が**82%**
- 一方、「**横ばいC**」+「**後退D**」の割合は**18%**
- 「**後退D**」となったのは8つのKPIで、その割合は減少している。また、そのうち、3つのKPIは前年から実績値が前進している。
- 【「新・群馬県総合計画に係る懇談会」有識者意見】
  - 「デジタルが当たり前」という認識が広まった一方で、コロナ後は対面の働き方が創造性・生産性の面で再評価された。
  - デジタル化が進むほど、人の価値が高まり、アナログな営みが付加価値になる。
  - 国でもクリエイティブ産業の成長性が謳われているが、産業人口が不足している。群馬県が先駆けてtsukurun、TUMOで人材育成に動いているので、リーダーシップに期待している。
  - 新・総合計画を中高生などの若者に見てもらい、これにより様々な成果が出ていることを、県民に実感として伝えていける機会があるとよい。
  - 群馬県の農業は外国人労働者に依存している。農業を地域基盤と再定義し、環境・防災・福祉と連携することで多文化共生の場となる。

「新・群馬県総合計画（ビジョン）」で掲げた県民幸福度の向上に向け、県民幸福度の指標化を行いました。目に見えない幸福度を指標化するにあたり、群馬県の考え方を紹介します。

## 1. 指標化の目的

県民幸福度を指標化する目的は、以下のとおりです。

- ① 県民幸福度を「見える化」する
- ② 県民幸福度と県の政策との関連を分析する
- ③ 県民幸福度向上に向けた政策立案へ活用する

## 2. 指標の設定

### （1）指標体系

指標化にあたっては、主観的指標を主体としつつ、主観的指標のみでは捉えにくい点を補足するため、客観的指標を組み合わせた多角的な視点によるダッシュボード形式を採用しています。（体系図は次ページ参照）

なお、設定した指標は社会情勢や県民意識の変化等を考慮しながら、必要に応じて見直しを行います。

### （2）主観的指標

県民幸福度アンケート（概要は次ページ参照）の結果を基に幸福実感、幸福かどうかを判断する際に重視した事項、満足感、群馬県のよいところ、群馬県への誇り、今後の居留意欲及び「新・群馬県総合計画（基本計画）」において今後10年間の重点施策として体系化した19の政策分野ごとの施策実感を指標化しました。

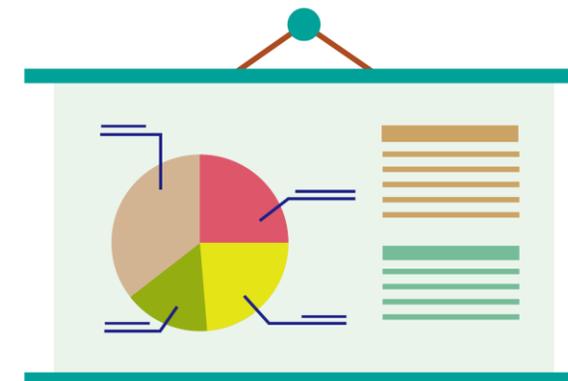
### （3）客観的指標

19の政策分野ごとに、県民幸福度に関係すると思われる統計データを指標化しました。

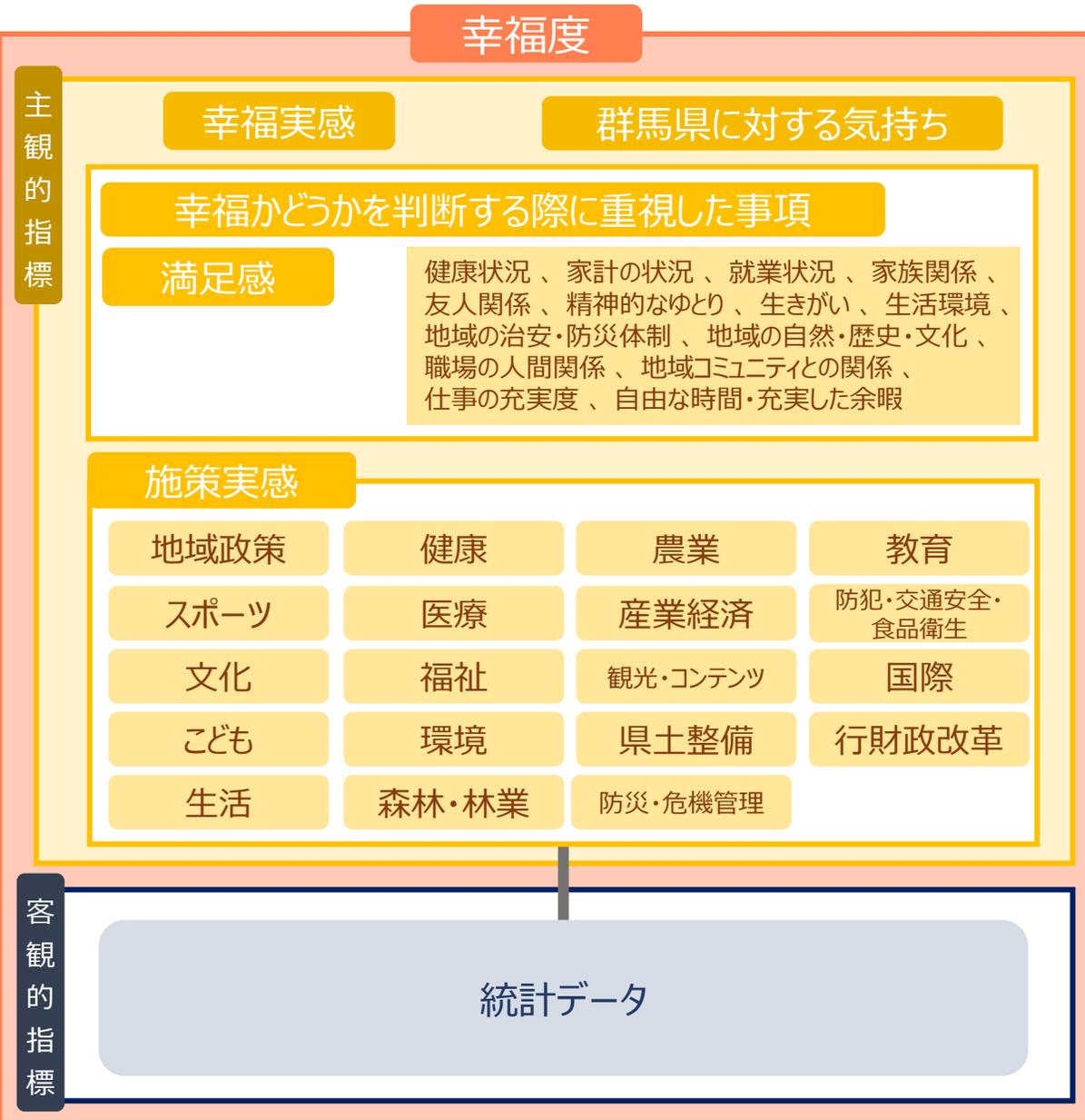
なお、統計データは、以下の指標等を基本に、3つの幸福※の視点を踏まえ選定しています。

- ・「新・群馬県総合計画（基本計画）」のロードマップに掲げるKPI
- ・地方創生SDGsローカル指標

※ 3つの幸福…p21を参照



### 3. 幸福度指標化の体系図



### 4. アンケートの概要

#### 県民幸福度アンケートの概要

調査地域	群馬県内全域
調査対象	県内在住の満18歳以上の個人
調査期間	令和2年度調査：令和2年12月1日～12月22日 令和3年度調査：令和3年12月7日～12月24日 令和4年度調査：令和5年1月10日～2月7日 令和5年度調査：令和5年9月11日～10月13日 令和6年度調査：令和6年9月17日～10月11日
標本数	各年度 3,300人
有効回答数 (有効回収率)	令和2年度調査：1,697件 (51.4%) 令和3年度調査：1,582件 (47.9%) 令和4年度調査：1,568件 (47.5%) 令和5年度調査：1,480件 (44.8%) 令和6年度調査：1,435件 (43.5%)
標本抽出方法	層化二段無作為抽出法（選挙人名簿登録者） ※県内11地域から300人ずつを抽出し、集計の際に回答者の居住地域の偏りを考慮し、回答者の構成が県全体の縮図になるように補正を加えています。 補正を加えた結果、各表中の数字を足し合わせても合計等と合致しないことがあります。
調査方法	郵送による調査票の配布、 郵送又はオンラインによる回答回収

#### 主な質問項目

- ① 主観的幸福感についての項目（実質問数 33問）
- ② 施策実感についての項目（実質問数 42問）
- ③ 特定の施策についての項目（実質問数 5問）

県民幸福度アンケートの詳細は[こちらから](#)…

群馬県ホームページ



# 目次

## 第1部

### 県民幸福度の 現状と分析

#### 1.1 主観的幸福実感の結果

・・・P.8

#### 1.2 主観的幸福実感の分析

・・・P.13

#### 特集



追加インタビュー企画  
県民20代女性の幸福度が高い要因とは？  
・・・p.18

## 第2部

### 施策実感の 現状と分析

#### 2.1 19の政策分野ごとの分析

・・・P.23

## 第3部

### データ編

#### 3.1 属性別データ一覧 ※別ページへのリンク

・・・P.38

#### 3.2 客観的指標一覧 ※別ページへのリンク

・・・P.38

# 第1部

## 県民幸福度の現状と分析

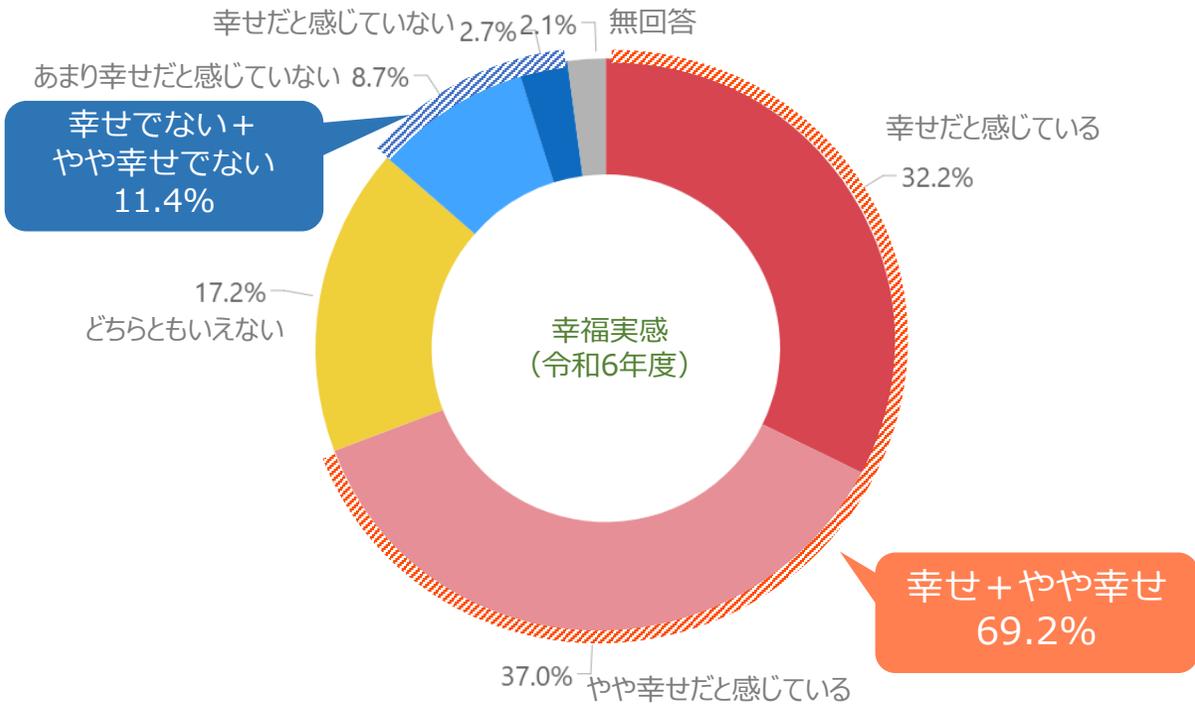
写真：群馬県の魅力を発信するSNS投稿事業「ぐんま応援びと」  
@ hbara6さん (X) 作「春の訪れ」

📍 桃ノ木川沿い（前橋市）

# 1.1 主観的幸福実感の結果

## 1. 幸福実感

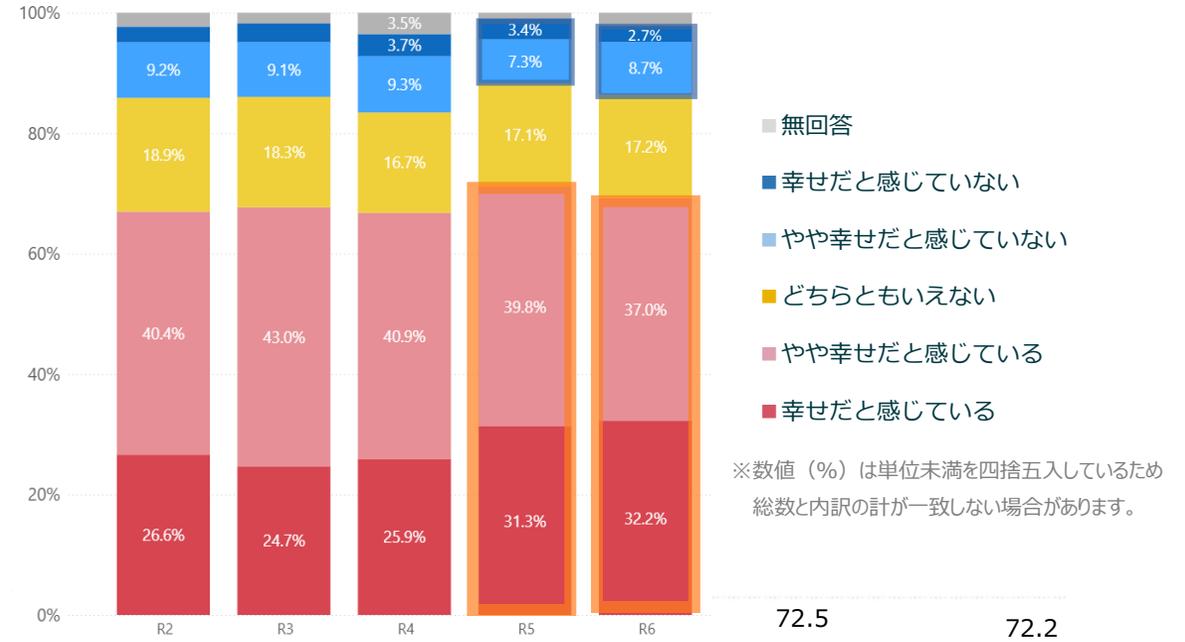
Q「あなたは現在、どの程度幸せだと感じていますか」



令和6年度調査では、「幸せだと感じている」と「やや幸せだと感じている」の回答を合わせた『**幸せだと感じている**』の回答割合は**69.2%**でした。

一方、「幸せだと感じていない」と「あまり幸せだと感じていない」の回答を合わせた『**幸せだと感じていない**』の回答割合は**11.4%**でした。

幸福実感 (5年間の推移)



※数値 (%) は単位未満を四捨五入しているため 総数と内訳の計が一致しない場合があります。



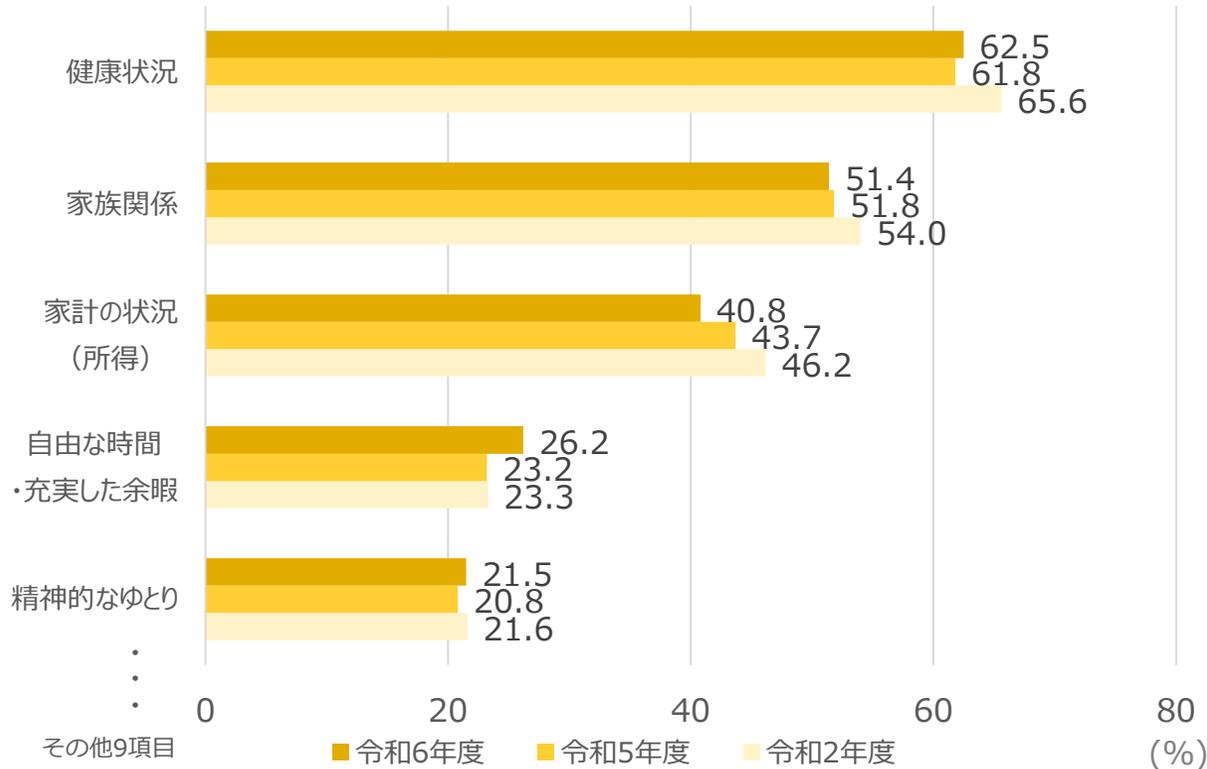
前年度と比較すると、『幸せだと感じている』(前年度：71.1%)は若干減少し『幸せだと感じていない』(前年度：10.7%)は若干増加しました。標本抽出によるアンケート調査における誤差を考慮すれば、**幸福実感**は**前年度から横ばい**と考えられます。回答に点数を付与して算出した平均点についても、前年度比で0.3ポイント減少していますが、**5年間の推移としては、昨年度から上昇傾向にあり、令和6年度についても維持している**ことが伺えます。

※平均点の算出方法  
 「幸せだと感じている」を100点、「やや幸せだと感じている」を75点、「どちらともいえない」を50点、「あまり幸せだと感じていない」を25点、「幸せだと感じていない」を0点として、回答者の合計点数を回答者の人数で割って算出

## 2-1. 幸せかどうかを判断する際に重視した事項（3つ選択）

Q「現在のあなたが、「幸せ」かどうかを判断する際に重視した事項は何ですか」

幸せかどうかを判断する際に重視した事項（令和6年度の上位5項目）



令和6年度調査では、**健康状況(62.5%)**が最も多く選ばれ、**家族関係(51.4%)**、**家計の状況(所得)(40.8%)**と続きます。（上位5項目は調査開始時から5年連続で同じ）

調査開始時（令和2年度）と比較すると、健康状況、家族関係、家計の状況（所得）、精神的なゆとりは減少し、自由な時間・充実した余暇が上昇しています。

## 2-2. 10年後幸せかどうかを判断する際に重視するであろう事項（3つ選択）

現在幸せかどうか判断する際の重視度  
（令和6年度）

10年後に幸せかどうか判断する際の重視度  
（令和6年度）

順位	項目	回答率 (%)	順位	項目	回答率 (%)
1	健康状況	62.5	1	健康状況	77.1
2	家族関係	51.4	2	家計の状況（所得）	52.1
3	家計の状況（所得）	40.8	3	家族関係	43.3
4	自由な時間・充実した余暇	26.2	4	生活環境 （居住・福祉・生活環境など）	20.1
5	精神的なゆとり	21.5	5	自由な時間・充実した余暇	19.2

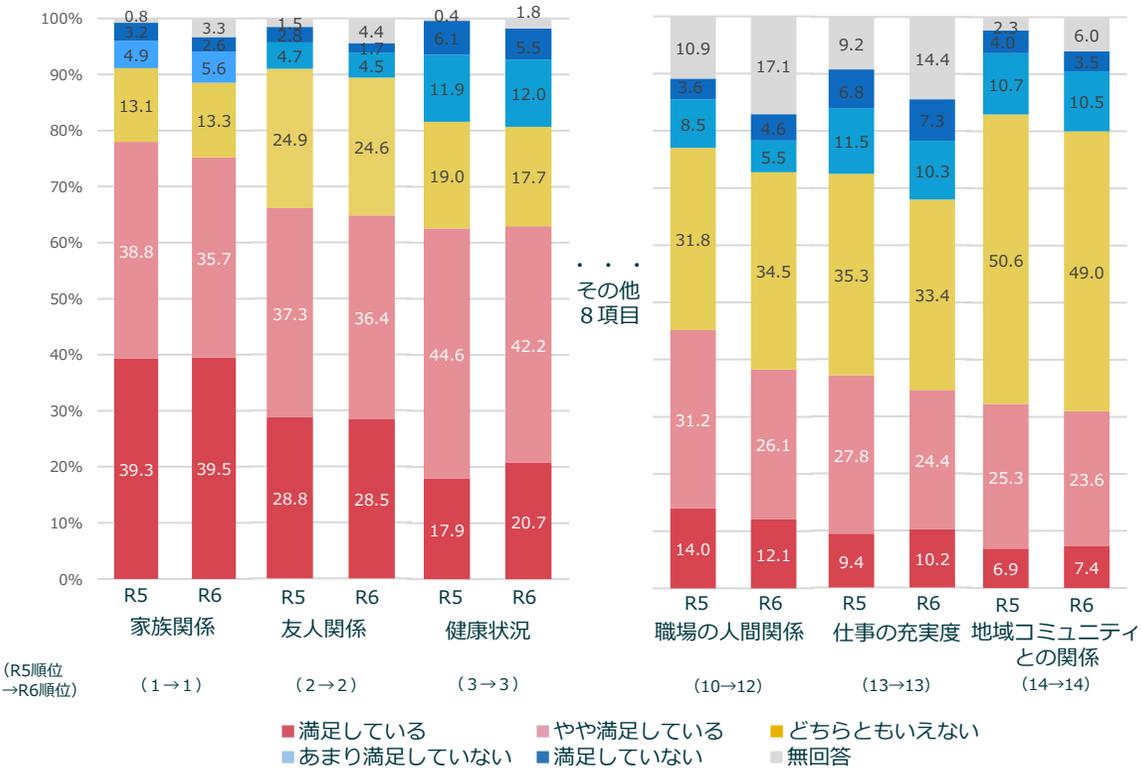
※各設問の上位5項目を抜粋

現在と10年後の重視度の上位5項目を比較すると、令和6年度調査では、**健康状況と家計の状況（所得）**について、**10年後の方が重視度（回答率）が10ポイント以上高い**という結果になりました。10年後の重視度の上位3項目（健康状況、家計の状況（所得）、家族関係）は調査開始時から5年連続で同じ項目になっています。

### 3. 満足感

Q「次の1～14の各項目について、あなたはどの程度満足していますか」

満足感（令和6年度の上位・下位3項目）



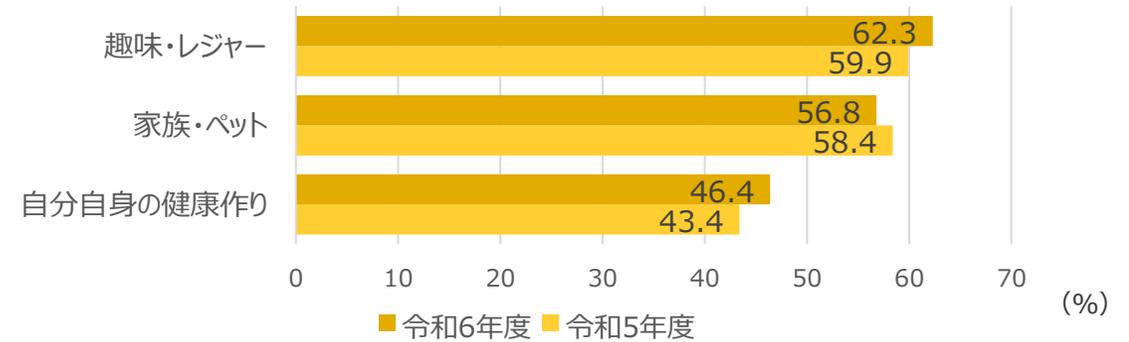
上位3項目については調査開始以来、5年連続で家族関係、友人関係、健康状況となりました。（順位の変動もなし）

下位3項目は、**職場の人間関係（前年度10位）が新たに加わり、昨年度から7.0ポイントと大きく下降しました。**

※数値（%）は単位未満を四捨五入しているため総数と内訳の計が一致しない場合があります。

Q「「生きがい」について、満足感を判断する際に重視したことは何ですか」（3つまで選択）

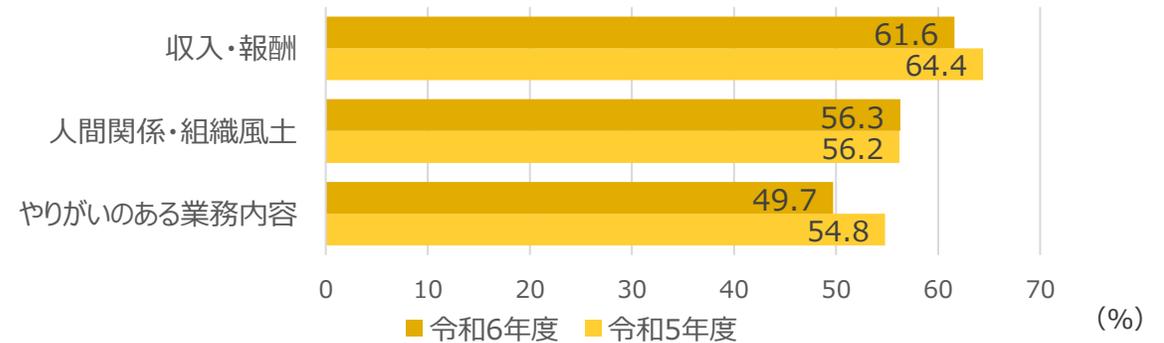
「生きがい」の満足感を判断する際に重視した事項（上位3項目）



生きがいについて、上位3項目は昨年度同様でしたが、「趣味・レジャー」は2.4ポイント、「自分自身の健康作り」は3.0ポイントそれぞれ上昇しました。

Q「「仕事の充実」について、満足感を判断する際に重視したことは何ですか」（3つまで選択）

「仕事の充実度」の満足感を判断する際に重視した事項（上位3項目）

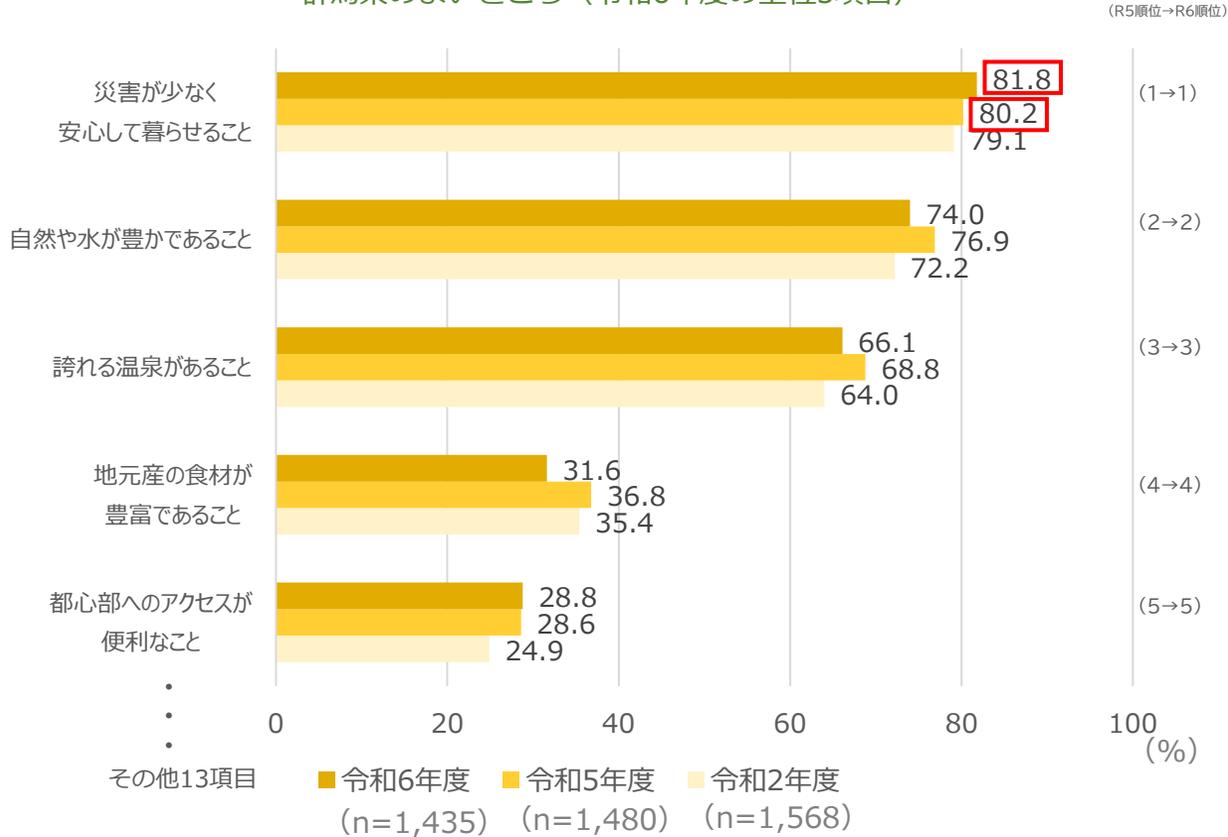


仕事の充実度についても、上位3項目は昨年度同様でしたが、「収入・報酬」は2.8ポイント、「やりがいのある業務内容」は5.1ポイントそれぞれ下降しました。

#### 4. 群馬県のよいところ（当てはまるものを全て選択）

Q「あなたが思う「群馬県のよいところ」はどのようなところですか」

群馬県のよいところ（令和6年度の上位5項目）



上位5項目は4年連続で同じ結果となりました。「**災害が少なく安心して暮らせること**」については、**4年連続で8割を超える回答率**となっており、群馬県は災害の少なく安全な県であるというイメージが県民に浸透していることが伺えます。

#### （参考）客観的データから見る群馬県の災害リスク

震度4以上の地震発生回数  
(1919~2024)



過去10年間の罹災世帯数（※）  
(2014~2023)

都県名	罹災世帯数
群馬県	443
茨城県	8,720
栃木県	7,434
埼玉県	5,735
千葉県	8,654
東京都	2,397
神奈川県	3,075

引用元：消防白書（消防庁）

※全壊、半壊、床上浸水の被害を受け、通常の生活ができなくなった世帯

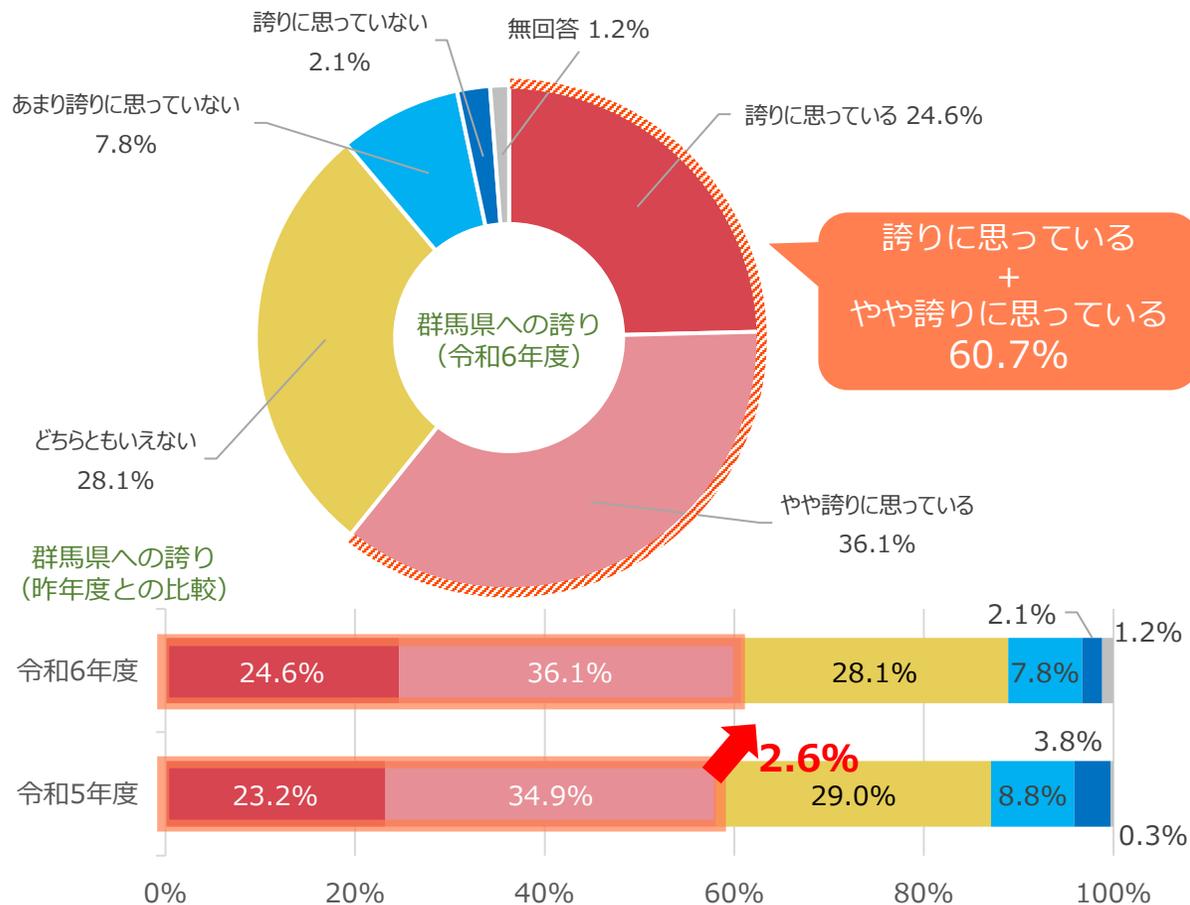
引用元：気象庁震度データベース

群馬県の災害の少なさは客観的なデータにも表れており、**関東地方における震度4以上の地震発生回数は最少となっています**。また、過去10年間の**罹災世帯数も他の都県と比較して最も少なく、災害リスクが相対的に低い地域**と言えます。

しかしながら、群馬県でも過去には大きな地震や台風による水害、浅間山の噴火災害などが発生しており、今後も県全体として防災意識を適切に高めていくことが重要です。（本県の防災・危機管理分野における取組は33ページを参照）

## 5. 群馬県への誇り

### Q「あなたは、群馬県のことを誇りに思いますか」

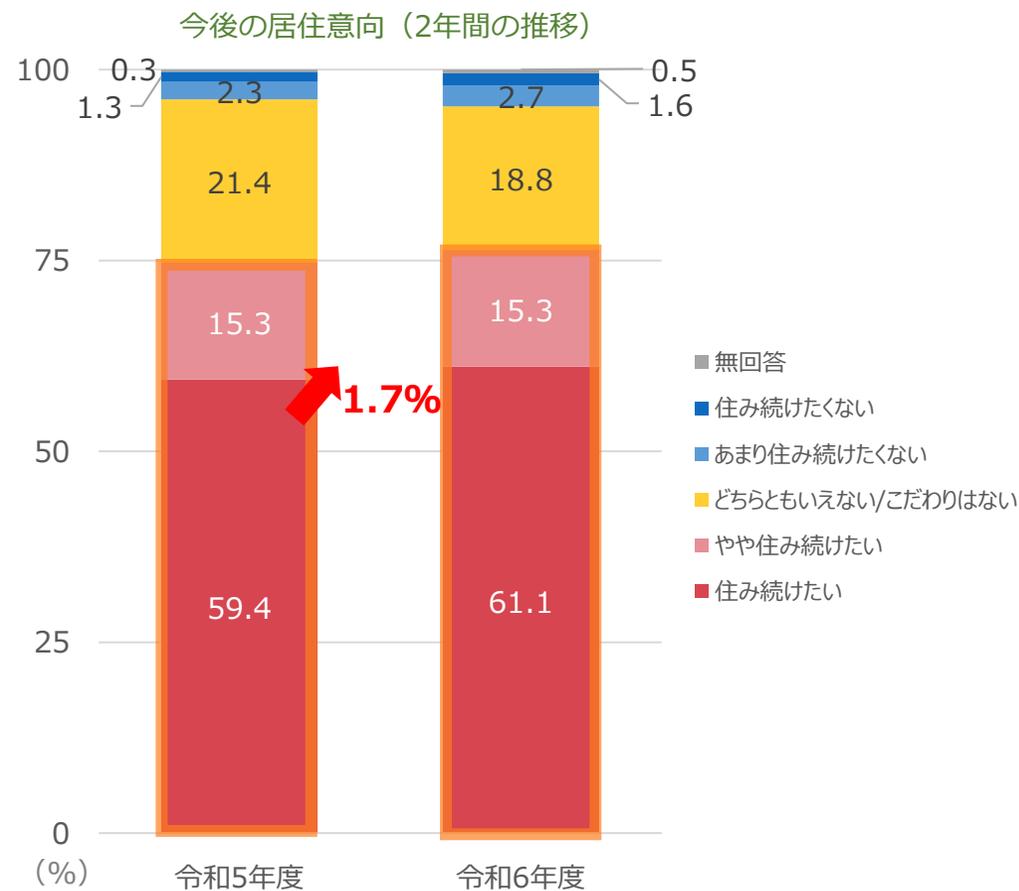


※数値 (%) は単位未満を四捨五入しているため総数と内訳の計が一致しない場合があります。

令和6年度調査における、群馬県を「誇りに思っている」と「やや誇りに思っている」を合わせた『**誇りに思っている**』割合は**60.7%**で、前年度 (58.1%) から2.6ポイント上昇しました。

## 6. 今後の居留意欲

### Q「あなたは、今後も群馬県に住み続けたいと思いますか」

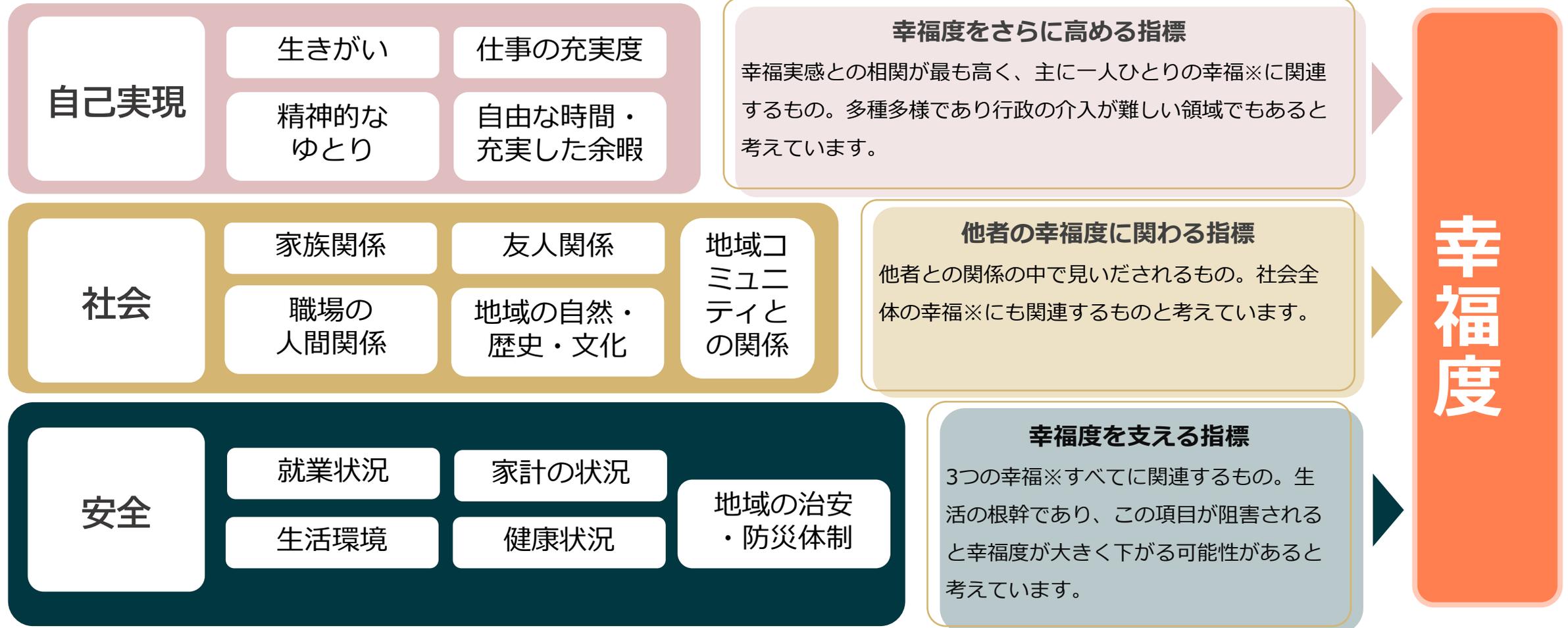


令和6年度調査の「住み続けたい」と「やや住み続けたい」を合わせた『**住み続けたい**』の回答割合は**76.4%**で、**前年度(74.7%)から1.7ポイント上昇**しました。

一方で「住み続けたくない」と「あまり住み続けたくない」を合わせた『**住み続けたくない**』の回答割合は4.3%であり、こちらは前年度(3.6%)から大きな変化はありませんでした。

満足度の14項目について幸福度との関係に基づいて3段階に分類しました。

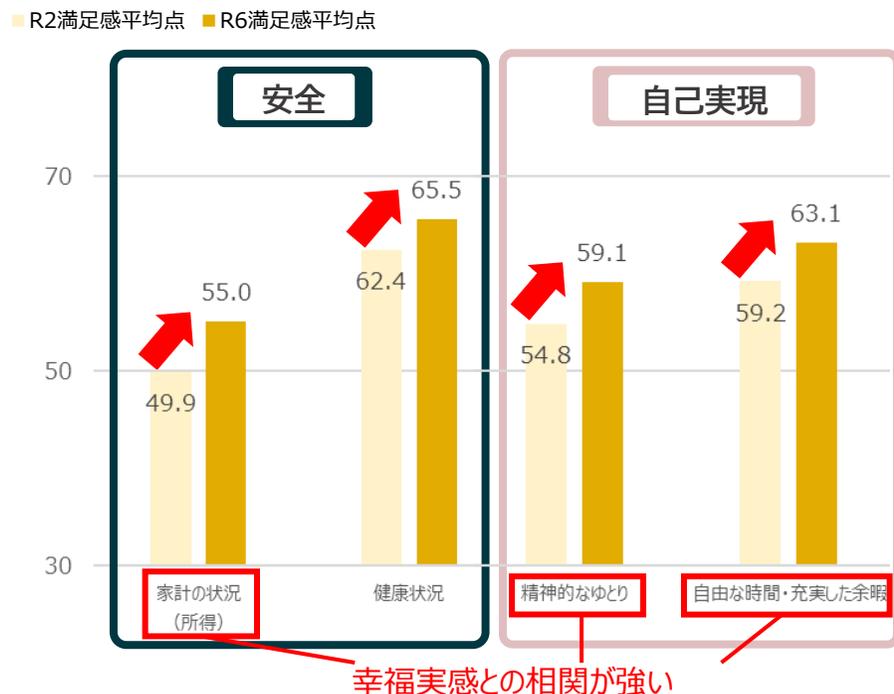
## 1. 満足度の項目の分類



※群馬県が考える3つの幸福についてはp21を参照

## 2. 満足度が有意に変化した項目

令和2年度と比較した令和6年度の満足感の変化  
(有意な変化のあった4項目)



満足感14項目について、調査開始当初の令和2年度と令和6年度を比較したところ、「安全」分類の2項目、「自己表現」分類の2項目がそれぞれ有意に上昇し、下降した項目はありませんでした。(自由な時間・充実した余暇は令和5～6年度の比較でも有意に上昇)

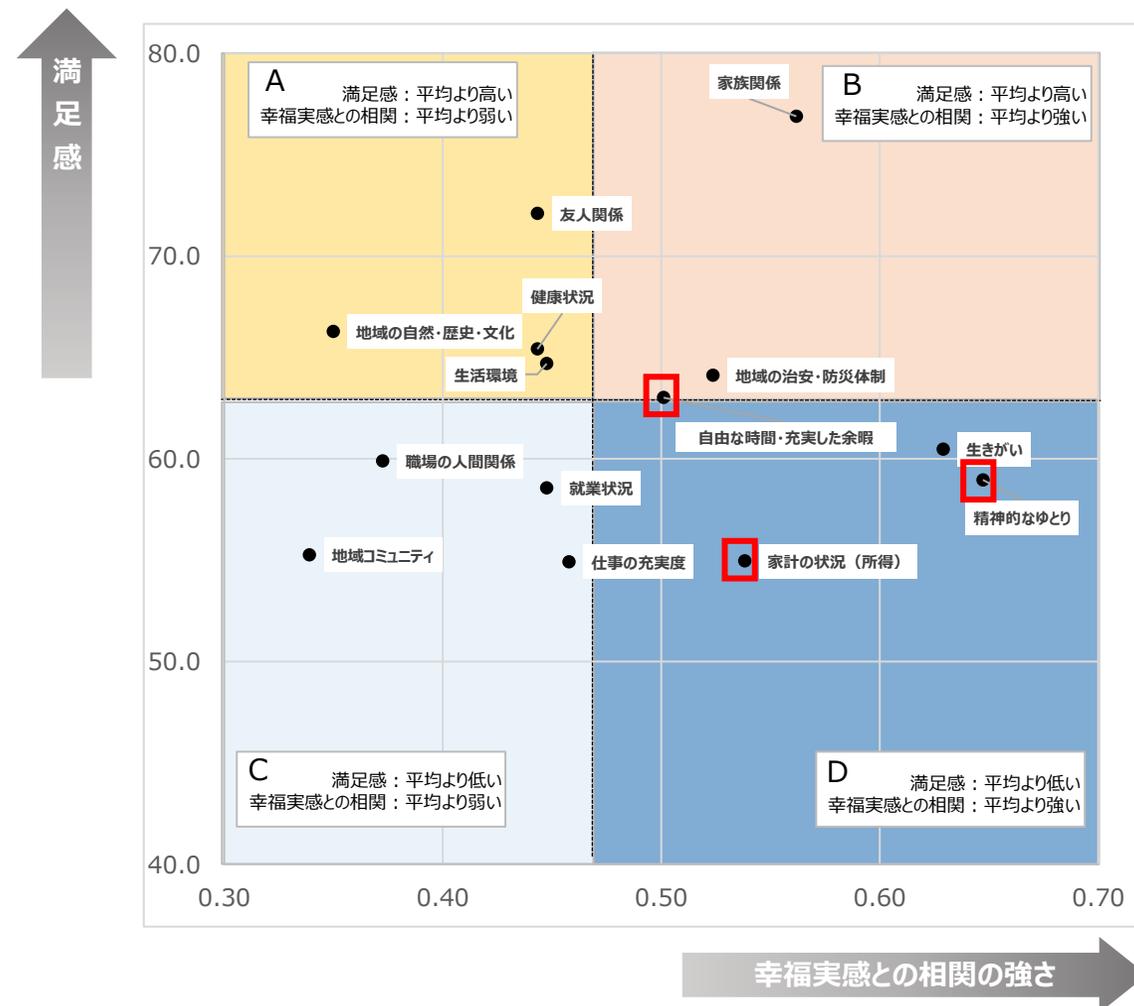
特に、**家計の状況(所得)**、**精神的なゆとり**、**自由な時間・充実した余暇**は幸福実感との相関が平均より強く(右図)、この5年間で県民の幸福実感が上昇している(8ページ参照)一因であると考えます。

その一方で、この3項目はD領域(相関は平均より強いが、満足感は平均より低い)に属していることから、引き続き改善に向けた重点的な取り組みが必要です。

※平均点の算出方法

「満足している」を100点、「やや満足している」を75点、「どちらともいえない」を50点、「やや満足していない」を25点、「満足していない」を0点として、回答者の合計点数を回答者の人数で割って算出

幸福実感と満足感の相関係数 散布図 (令和6年度)

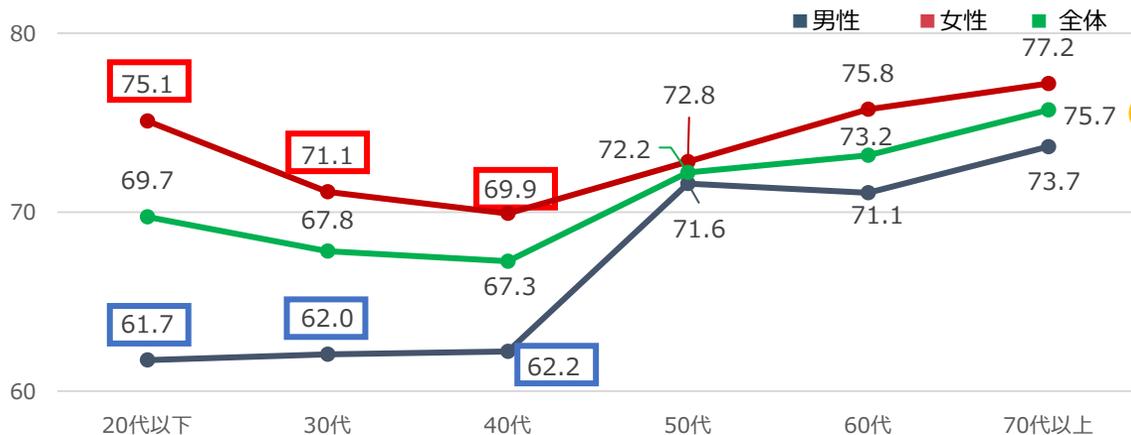


※相関係数について

上図では、幸福実感との相関が強いほど(上図で右に位置するほど)、その項目の満足感の高さと幸福実感の高さの関わりが強いことを表します。一般的に、相関係数が0.7程度あると、強い相関があると言われていました。

### 3-1. 幸福実感が低い年代・性別

年代別の幸福実感の平均点（令和6年度）



令和6年度における年代別幸福実感では、どの年代も女性より男性の幸福実感が低く、特に20～40代でその差が大きくなっています。一方で、**20代女性は他の年代と比較しても幸福実感が相対的に高い傾向**が見られます。

年代・男女別の幸福実感の平均点（令和2～6年度の平均）



過去5年間の年代・男女別平均においても、どの年代も女性より男性の幸福実感が低く、特に**30代・40代の男性の幸福実感が低い**結果となっています。

### 3-2. 幸福実感が低い年代・性別（仮説）

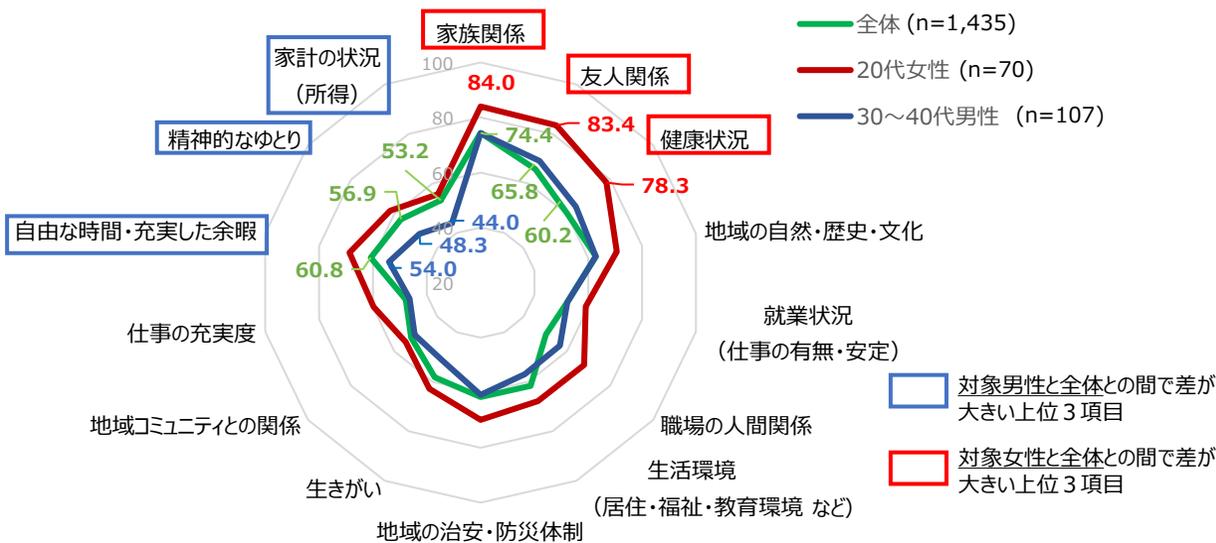
どのようなことが30～40代男性の幸福度に影響を与えているか、仮説を立ててみました。

仮説

#### <30～40代男性> なぜ低い？

- 職場・家庭での責任増
  - 自由に使える時間が少ない
  - 収入・将来への不安
- 精神的なゆとりが少ない

属性別満足感平均点のレーダーチャート（令和6年度）



令和6年度の結果も見てみると、30～40代男性は、全体と比較して、特に**家計の状況、自由な時間・充実した余暇、精神的なゆとりの満足感が低く**なっており、仮説に挙げた要因と類似する傾向が確認されました。（一方で、20代女性は全体と比較して、特に家族関係、友人関係、健康状況の満足感が高い）

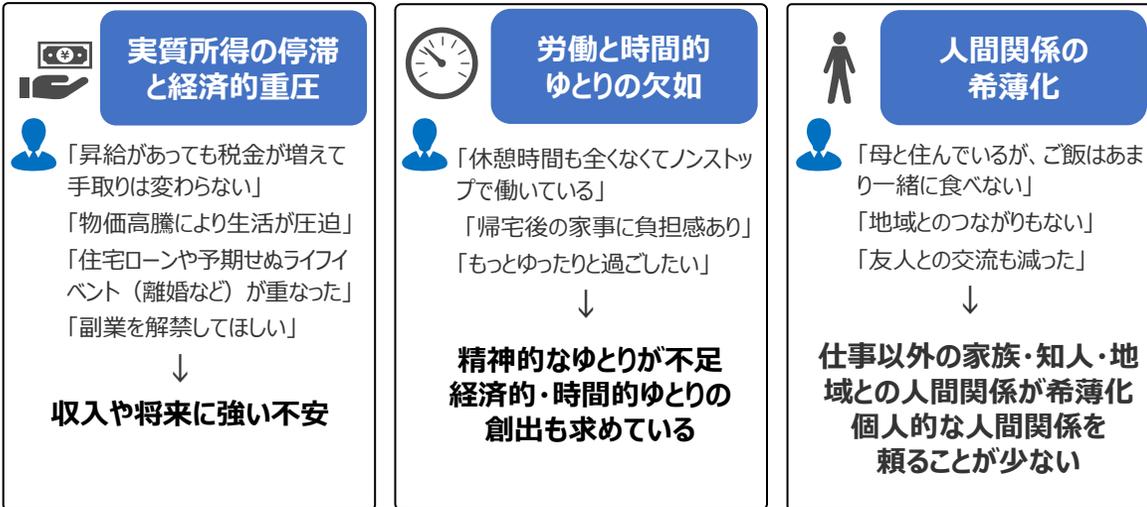
以上を踏まえ、30～40代男性の幸福度が低い要因を深掘りするため、県民へのインタビューを実施しました。（次ページ以降）

## 4.30～40代男性への幸福度インタビュー

### (1) 調査概要

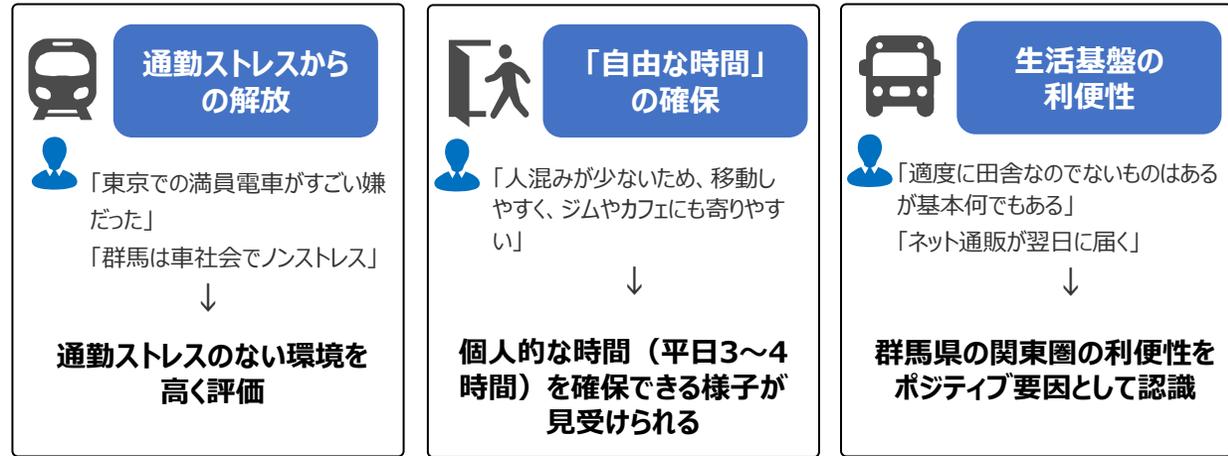
- |                 |  |
|-----------------|--|
| <b>調査方法</b>     | オンラインインタビュー（モデレーターとの1on1）  |
| <b>選定方法</b>     | 調査会社（委託）のモニターから以下の条件に合致した4名を選定 <ul style="list-style-type: none"><li>群馬県内で働いている方</li><li>事前アンケートで比較的幸福度が低いと回答した方</li></ul> |
| <b>対象者の共通属性</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>全員が群馬県内出身</li><li>全員が大学進学や就職で一度は東京などの首都圏に出ている</li><li>全員が群馬県在住</li></ul>             |

### (2) 幸福度の要因<ライフステージ要素>



上記の3項目の共通することとして、**ライフステージに伴う経済的・時間的な負荷がこの層の幸福度の低さに影響を与えている**ことが考えられます。

### (3) 幸福度の要因<地域要素>



上記の3項目から、**群馬県在住による恩恵（満員電車等によるストレスの回避、関東圏の利便性など）は享受しており、この層のポジティブ要因になっていることが分かります。**

### (4) 推察



インタビュー結果から、**ライフステージ要素（経済的・時間的プレッシャー等）のネガティブな部分が大きく、それが幸福実感の低さに結びついている可能性**があります。（前ページ右上の仮説に近い結果）

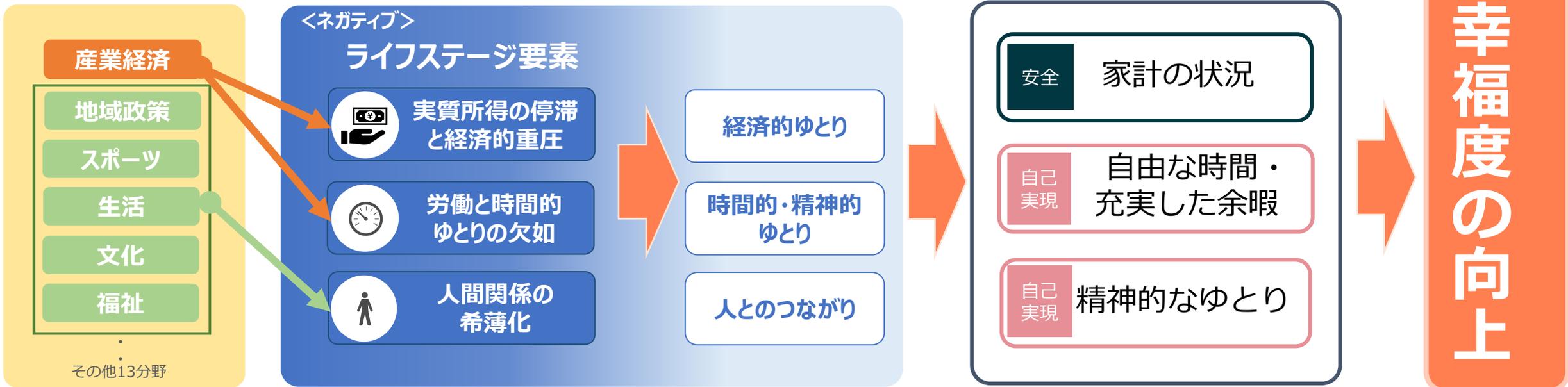
**地域要素についてはポジティブ（ストレス回避等）に働いていると考えられますが、それだけではネガティブ要因を相殺し切れていない構造になっていると推測**されます。

## 5. 県民幸福度向上に向けた今後の取り組み<30~40代男性>

### 19の政策分野

### 『3つのゆとり』と『人とのつながり』を創出

### 満足度の低い項目にアプローチ



30~40代男性の幸福実感の低さの要因についての仮説は、インタビュー調査で実際に確認できました。そこで、19の政策分野における力を入れて取り組むべき分野や、そのことによる幸福度の向上の流れを整理しました。

30~40代男性のライフステージ要素のネガティブ要因を改善するため、『3つのゆとり（経済的・時間的・精神的）』と『人とのつながり』を創出する取組が必要と考えます。そのため、19の政策分野のうち、特に「**産業経済**」分野に力を入れて取り組みます。

これらの取り組みにより、30~40代男性において、満足度が低い「精神的なゆとり」「家計の状況（所得）」「自由な時間・充実した余暇」の満足度を向上させ、ひいては県民幸福度の底上げにつなげます。

# 県民20代女性の幸福度が高い要因とは？

15ページにて幸福度が高い結果が出ていた20代女性。幸福度の高い要因を深掘りし、更なる県民幸福度向上につなげるため、県内在住20代女性4名にグループインタビューを実施しました。

## インタビューにご協力いただいた 群馬県在住・20代女性の皆さん



Iさん  
既婚・自営業  
子育て中



Nさん  
既婚・主婦  
子育て中



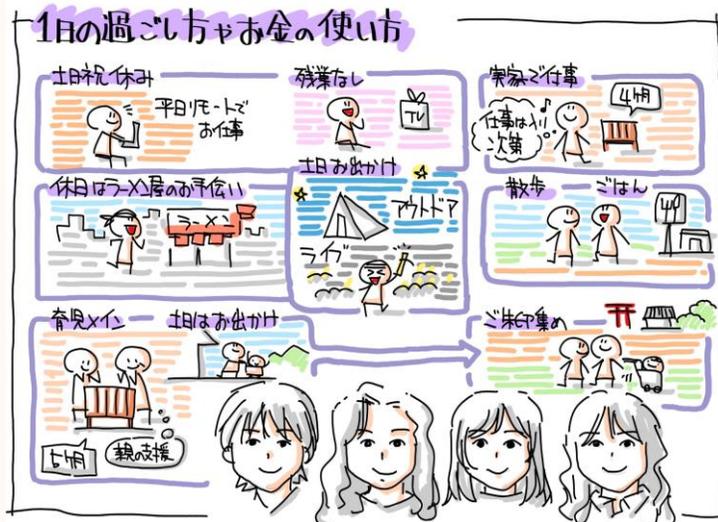
Kさん  
未婚・会社員  
一人暮らし



Sさん  
未婚・会社員  
実家暮らし

## 皆さんの一日の過ごし方やお金の使い方 について教えてください。

- I ネイルをしていて、予約が入ったら仕事をしています。何時から何時というのではなく予約次第。そうでないときは子どもの面倒を見ている。  
仕事以外の時間は友達と高崎あたりのおいしいごはんを調べて食べに行きます。
- N 育児中でほぼ子どもと一緒にいます。土日は旦那さんと子どもと3人で出かけたり。  
今は御朱印帳集めにはまっています、休日に集めています。



↑インタビュー中はグラフィックレコーディングにより参加者の発言をリアルタイムで記録。

K 私はフルタイムで働いていて、土日祝が休みです。一人暮らしをしていて、平日の仕事終わりは買い物に行ったり、友達に会ったり、散歩をしたり。土日は知り合いのラーメン屋でお手伝いしています。

ラーメン屋は就職する前までしていたバイト先なので、遊びに行っている感覚ですね。

S 私もフルタイムで、土日祝日が休みです。仕事終わりはテレビを見たり、実家暮らしなので親と買い物にいたりしています。

土日は友達と買い物に行ったり、リフレッシュのために県内のライブやキャンプに行きます。キャンプは中之条、水上、沼田の方ですね。空気が澄んでいて星空も見られるんですよ。

## 自分の幸福度を考えたとき、どういう要素が影響していると思いますか？

I **家族仲が良いところ。**子どもが生まれてからみんなで集まることが多くなりました。お姉ちゃんからお古もらったり、子育てについて色々聞いたりしています。

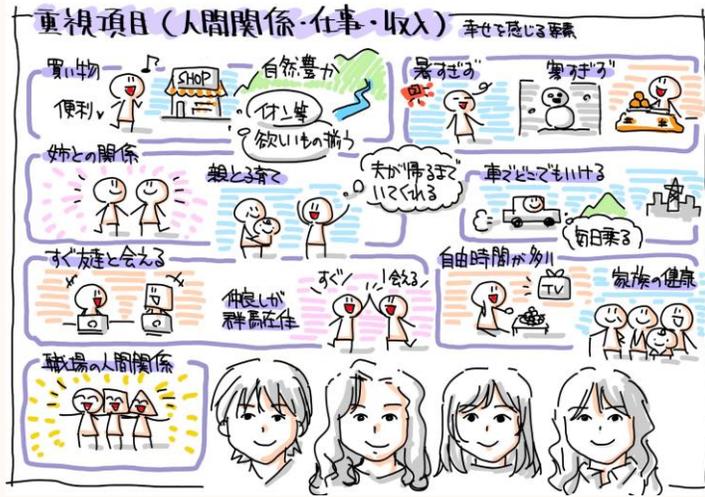
群馬は買い物が便利。化粧品も服もすぐ買いに行けるし、自然が近いところも良いと思います。

N **親の協力で気のはらない子育てができるところ。**お店はあるし、公園がたくさんあるから、子どもとどこかしらには行けるところ。

夫が仕事的时候は、ほぼ毎日お母さんが来てくれて、夫が帰ってくるまでずっといてくれています。育児が大変な時期もあったけど、親がいてくれて、ラクだな、みたいな。めっちゃ大事なことになって。

K **すぐ家族や友達に会えるところ。**友人は、群馬に残っているから仲良くなったというのが正しいかも。学校を卒業してから仲良くなる子もいます。

家族は同じ市内に住んでいて、毎週末会っています。家族みんなでおばあちゃんの家でごはんを食べるのが恒例になっています。



**K** それから職場の人と仲が良く、この前一緒に野球観戦したり、ライブ見に行ったりしました。車があるから、わりとどこにでも行けて、この前は沼田の方へりんご狩りに行きました。アウトホームな職場なので、他のところには行きたくないです。よそを知りたい気持ちもありますが、環境を変えるのは怖いなど思っています。

**S** すぐに会える距離に友人がいるところ。友人は半々くらいが群馬に残っています。県外に出て、仕事が嫌で群馬に戻ってきた人もいました。東京の友達にも車で会いに行きます。群馬で車のない生活は考えられないですね。(全員：うなづく)  
それから、仕事がほとんど定時に終わるから、自分の好きに遊んだり出かける時間が取れてやりたいことができるところ。家族がみんな健康というのがありますね。



### 今回のインタビューモデレーター 内堀 愛恵さん

慶應義塾大学大学院医学研究科助教。福岡県出身。東京大学法学部卒。現在所属する慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室では、ヘルスデータサイエンス、働く人や女性の健康、ウェルビーイングなどの研究に取り組んでいる。本インタビュー企画では、研究者として内容の監修にも関わっている。

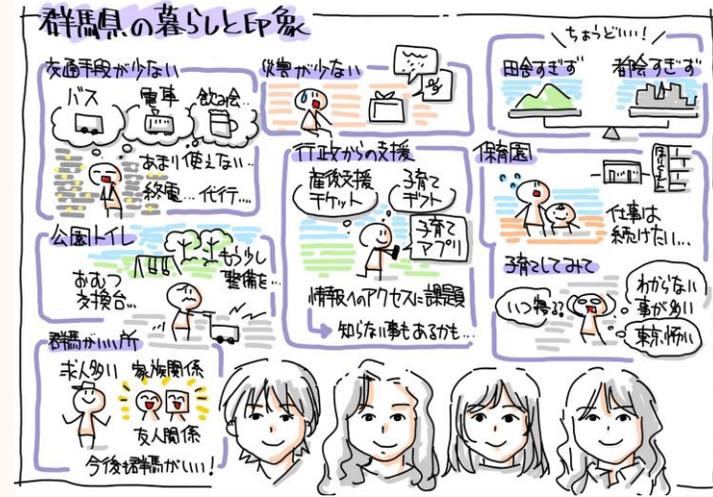
## ——群馬に住んでいていいな、こうなったら暮らしやすくなるなと思うことはどんなことですか？

**I** 市の産後ケアが無料で使えるんです。普段ゆっくり寝ることがないからめっちゃ助かる。市の方から子育てアプリを教えてくれて、ワクチンとか産後ケアとか子育て系の色々な予約ができるんです。子どもがもう少し大きくなったら保育園に預けたいなと思っていますが、入れない人もいて聞きます。仕事も続けたいし、入れたらいいなって思います。

**N** あってうれしかったのは、市の妊娠とか出産のときにもらえる応援ギフトとか。ただ、東京に住んでいるママのアカウント見たら、東京の支援はめっちゃいいと言っていて…。群馬にももっといい支援があって見逃しているのかなと思います。あと、もっとわかりやすくなるといいなと思います。あと、産後ケアとか、私は使ったことないけど、市によって使い方のルールがあったりして、難しいなって。

**K** 災害が少ないところ。他の地方を見ると水害とか地震もあって、でも群馬はいつも無事なイメージ。コンビニは徒歩圏内にあるし、すごい人がいるわけでも大きいビルがあるわけでもなく、自然が近くにあって、住みやすいなと思っています。子育ての話題がありました。子育てに限らず、お得な情報とか見逃しているのかもと思いました。私ももっと情報収集がしやすくなるといいなと思います。ただ、子育てはやっぱ親が見てくれることもあるので群馬がいいです。

**S** 飲み会に行くときに遅い時間まで電車やバスが走っていないので、帰りは親に迎えに来てもらうか、タクシーで帰るときもあります。バスの本数も少なく、逃しちゃうと何十分も待たないといけなところとかも不便。ライブに行くときとか新幹線もよく使います。ただ、新幹線も遅い時間まで動いていなくて急ぎ足になりがちです。



## ——将来も群馬県に住み続けたいですか？

**I** 出る理由がないですね。住みやすく、自分の親とか家族にもすぐ会えるので、ずっと暮らしたいなと思っています。

**N** 私も同じです。子どもが最近生まれましたが、今住んでいるところは子どもにとって地元になる。子どもが安心して帰れる場所にいたいと思っています。なんなら群馬のもっと自然豊かなところで暮らすのもいいかなと思います。

**K** この先5年10年したら、なおさら出ないと思います。もし、群馬から出るならもう少し若い時にウワーツと遊んでから帰ってきたかな。安心安全な群馬でこの先も暮らしたいです。

**S** 職場が変わるなら出ることもあるかもしれませんが、特に変わる予定もないので、このまま住み続けるとしています。子どもが生まれたら田舎で育てたいという気持ちもありますし、群馬は住むのにちょうど良いです。

## <参考> 20代女性への幸福度インタビュー（まとめ）

### （1）調査概要



調査手法	フォーカスグループインタビュー（対面）
選定方法	調査会社（委託）が機縁法により以下の条件に合致した4名を選定
対象者の共通属性	<ul style="list-style-type: none"><li>群馬県内で働いている方</li><li>事前アンケートで比較的幸福度が高いと回答した方</li><li>全員が群馬県内出身</li><li>全員が進学・就職などで県外に出た経験はない</li><li>全員が群馬県在住</li></ul>

### （2）幸福度の要因<ライフステージ要素>



#### 育児負荷の恒常的軽減

「（育児は）こんなに寝れないのかと思った」  
「夫が仕事の際はほぼ毎日お母さんが来てくれる」  
「親の協力で気のはらない子育てができる」

↓  
親族の支援が日常的に機能し、精神的安定感が生まれている



#### 情報・資源の円滑な共有

「姉からお古をもらえたり、育児のいろいろな情報を教えてもらった」

↓  
親族間の密なコミュニケーションにより、子育てに必要な資源や情報を獲得



#### 家族仲の良さの継承

「毎週末親戚が集まることが恒例」  
「群馬から出る必要がない」

↓  
「子どもが安心して帰れる場所にいたい」という願望につながっている

今回の対象者は、ライフステージにおける大きな負荷である「子育て」を、家族や親族の協力により軽減できていることが伺えます。育児に関する情報や資源が円滑に共有され、必要な支援を受けられる環境が整っていることに加え、家族仲の良さが安心感を高めていると考えます。

### （3）幸福度の要因<地域要素>



#### 「ちょうど良さ」

「群馬は都会すぎず田舎すぎない」  
「コンビニやスーパーも行きやすいし、車で40分走れば自然もある」

↓  
利便性と自然の両方を享受できる環境を高く評価



#### 車社会によるノンストレスな移動

「車なしの生活は考えられない」  
「群馬は人混みが少なく、渋滞しないのも良い」

↓  
群馬の「人混みがない」「渋滞しない」環境が「ノンストレス」な生活を支えている



#### 災害リスクの低さ

「災害が群馬は少ない」  
「地震が起きても群馬はいつも無事なイメージ」

↓  
災害が少ないという安心感が、生活基盤の満足度を支える要素となっている

上記3項目から、こちらは30～40代男性へのインタビュー結果と同様に、20代女性も群馬県在住による恩恵を享受しており、それが生活における安心感を支えていると考えます。

### （4）推察

<ポジティブ>  
ライフステージ  
要素



<ポジティブ>  
地域要素

インタビュー結果から、「子育て」に伴う物理的・精神的な負荷に対して、親族による支援が継続的に機能しており、安心感を高めている可能性があります。（18ページ右上の仮説に近い結果）

さらに、群馬県ならではの利便性と自然環境を享受できていることも、幸福実感を押し上げる要因となっていると推察されます。

# 参考

## 群馬県が考える3つの幸福



1人ひとりの幸福



社会全体の幸福  
(県民の共生)



将来世代の幸福  
(持続可能性)

	20世紀の捉え方	幸福への疑問	目指す「幸福」
<p>一人ひとりの幸福</p>	<p>型が定まった「幸福」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>画一的な仕事・暮らし</li> <li>標準的な家族の形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>堅調な経済指標のわりに実感のない幸福</li> </ul>	<p>多様な「幸福」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとり異なる仕事・暮らし</li> <li>良好な人間関係(コミュニティ)</li> </ul>
<p>社会全体の幸福 (県民の共生)</p>	<p>固定的な「県民」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県民 = 居住者・出身者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様化する地域社会の参加者</li> <li>変化の激しい時代の弱者</li> </ul>	<p>多様な「県民」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県民 = + 関係者・外国人・新たなマイノリティ</li> </ul>
<p>将来世代の幸福 (持続可能性)</p>	<p>この時代の「県民」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いまを切り取った成長・配分の最大化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会や環境の持続可能性への懸念</li> </ul>	<p>未来を含めた「県民」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ドーナツ経済学」による持続的成長</li> </ul>

群馬県では、「一人ひとりの幸福」、「社会全体の幸福」、「将来世代の幸福」の3つの幸福を目指すこととし、この3つの幸福が調和した社会の実現に向けて取り組めます。

## 第2部

### 施策実感の現状と分析



写真：群馬県の魅力を発信するSNS投稿事業「ぐんま応援びと」  
@haruki\_marさん（Instagram）作「田園夢花火 たまむら花火大会」

📍 たまむら花火大会（玉村町）

# 2.1

## 19の政策分野ごとの分析

群馬県では、「新・群馬県総合計画（基本計画）」において2030年度までの重点施策を19の政策分野に分け、体系化しました。本節では、それぞれの分野について、県民幸福度アンケートにより把握する施策実感（主観的指標）及び各種統計データ等で把握する客観的指標から現状分析を行うとともに、今後の取組の方向性を示します。

### 1. 19の政策分野と施策実感一覧（1/3頁）

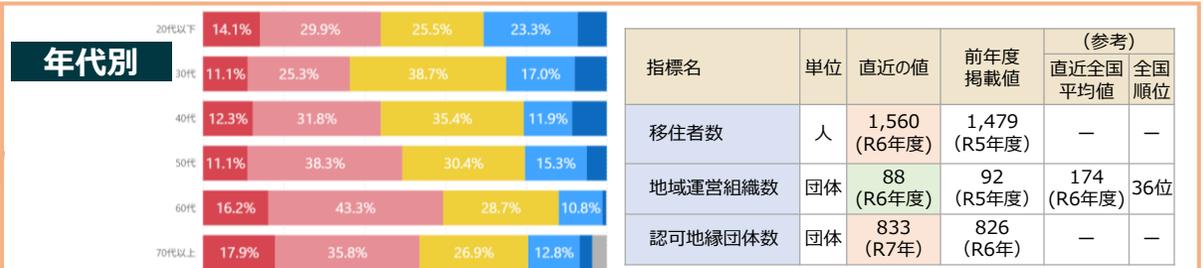
全施策実感の平均 **51.0** (前年度49.4)

分野	政策分野ごとの施策実感に関する設問	施策実感	
		R5年度	R6年度
1 地域政策	1 近隣住民同士が困ったときに助け合える地域環境	55.2	56.1
	2 移住者を受け入れる土壌	56.0	60.6
2 スポーツ	1 運動やスポーツに取り組むことができる環境	56.4	55.9
	2 運動やスポーツを観戦する機会	50.8	48.9
3 文化	1 群馬の歴史文化への誇り	60.9	63.5
	2 芸術を鑑賞したり、文化活動に参加できる場	53.6	53.0
4 こども	1 安心して子どもを産み育てられる環境	52.4	54.7
	2 子育てをしながら働き続けられる環境	47.4	48.6
5 生活	1 社会のあらゆる分野での個性と能力を發揮	47.8	49.1
	2 ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会	50.3	48.3
	3 消費者としての安心・安全	57.5	58.4

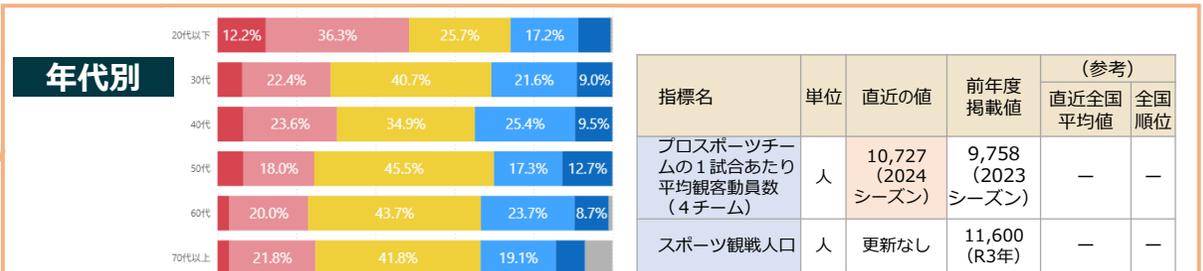
■ : 施策実感が**高い**5項目    ■ : 施策実感が**低い**5項目

⬆️ **上昇** : 令和5年度と比較し、令和6年度アンケートでの施策実感が有意に上昇  
 ⬇️ **下降** : 令和5年度と比較し、令和6年度アンケートでの施策実感が有意に下降

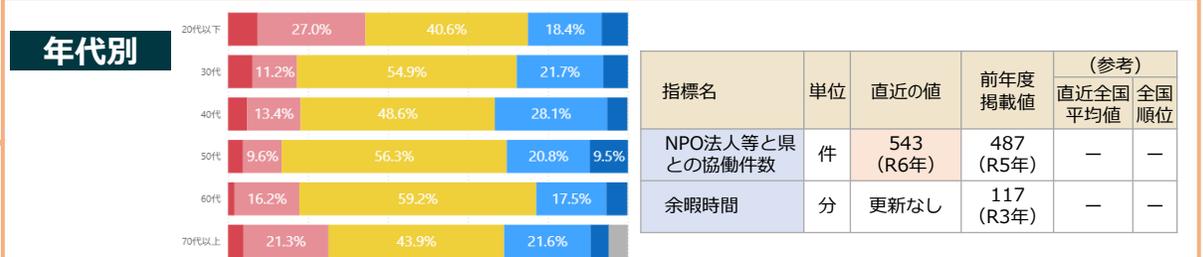
### 分析（統計的有意差のあった設問のみ）



・年代別では、年代が上がるにつれて実感が高い傾向となっています。  
 ・人口が減少する中で、年代に関わらず住民が助け合える地域環境の必要性が増しており、多様な主体による地域づくり活動を促進する必要があります。



新たに県内を拠点としたチームがプロリーグに参入し試合観戦の機会は増えている一方、30代以上の年代で「感じる」、「やや感じる」の回答が減少しています。より多くの県民に応援してもらうため県としてもチームの知名度向上を支援する必要があります。



・30代を除く年代で「感じる」「やや感じる」の割合が減少しています。  
 ・NPO法人等と県との協働件数は前年比12%増と、多様な主体との間で協働が進んでいる傾向にあることから、引き続き、情報発信や相談窓口によるマッチングを通じた協働促進に取り組む必要があります。

※施策実感：設問に対する回答を点数化し（「感じる」100点、「やや感じる」75点、「どちらともいえない」50点、「あまり感じない」25点、「感じない」0点）、その平均を求めたもの

# 1. 19の政策分野と施策実感一覧 (2/3頁)

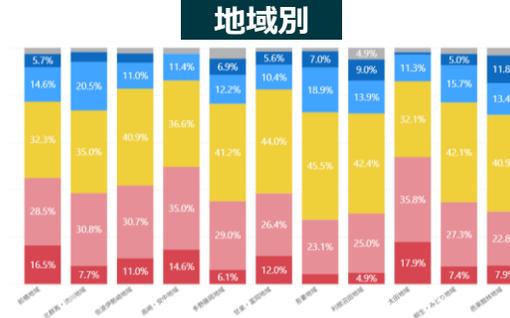
分野	政策分野ごとの施策実感に関する設問	施策実感	
		R5年度	R6年度
6 健康	1 健診や生活習慣病対策など相談や指導を受けられる環境	56.0	↑ 59.0
	2 自主的な健康づくりを促すための支援	48.9	↑ 51.7
7 医療	1 必要な医療サービスを受けられる体制	51.4	↑ 58.4
	2 救急医療体制	56.2	↑ 61.0
8 福祉	1 介護が必要でも住み慣れた地域で安心して生活できる環境	50.5	↑ 53.6
	2 悩みや不安をいつでも相談できる環境	42.0	↑ 44.9
9 環境	1 再生可能エネルギーの普及や利活用	43.1	44.2
	2 食品ロスを減らすための行動の定着	46.5	↑ 48.2
10 森林・林業	1 公共施設や住宅への県産木材の使用をよく見かける	- (※1)	36.4
	2 適切な森林の管理や利用	42.4	↓ 39.1
11 農業	1 農林水産業の担い手の確保・育成	39.8	39.4
	2 県産農林水産物のブランド評価	- (※2)	57.7
	3 県産農林水産物の県内外への販路拡大	- (※2)	57.3
12 産業経済	1 働きやすい職場環境	43.0	↑ 44.5
	2 十分な収入を得ることができる仕事	39.1	39.2

※1 令和5年度「公共施設や住宅などへの県産木材の使用」(39.8) 施策実感を正確に把握するため、設問表現を修正  
 ※2 令和5年度「群馬県産の農林水産物がブランドとして評価、県内外への販路拡大」(50.6) 詳細分析のため、設問分割

■ : 施策実感が高い5項目    ■ : 施策実感が低い5項目

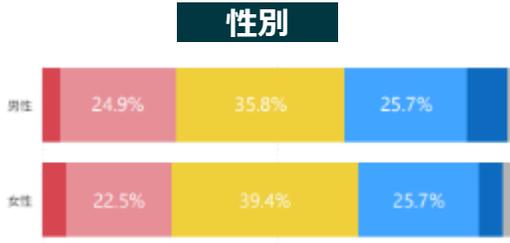
↑ 上昇 : 令和5年度と比較し、令和6年度アンケートでの施策実感が有意に上昇  
 ↓ 下降 : 令和5年度と比較し、令和6年度アンケートでの施策実感が有意に下降

# 分析 (統計的有意差のあった設問のみ)



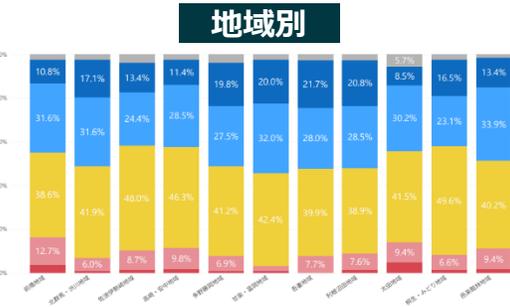
施策実感は前年度から上昇し、全地域で「感じる」「やや感じる」の割合が増加しました。ただし、地域によって差があるため、どこでも質の高い医療サービスを切れ目なく提供する施策が求められます。

指標名	単位	直近の値	前年度掲載値	(参考)	
				直近全国 平均値	全国 順位
医療施設従事医師数	人	更新なし	4,604 (R4/12/31)	-	-
訪問診療を行う病院・診療所の数	箇所	475~502 (R6年度)	486~513 (R4年度)	-	-
人口10万人あたりの医師数	人	更新なし	240.7 (R4/12/31)	-	-



「食品ロスを減らすための行動の定着」について、男女別分析では、「感じる」「やや感じる」の割合がこれまで伸び悩んでいた男性で7.3%増加しました。食品ロス削減に対する意識の広がりが伺えます。

指標名	単位	直近の値	前年度掲載値	(参考)	
				直近全国 平均値	全国 順位
フードバンクの人口カバー率	%	94.2 (R6年度)	92.8 (R5年度)	-	-
1人1日当たりの家庭系ごみ排出量	g/人日	612 (R5年度)	640 (R4年度)	475 (R5年度)	47位
県内食品ロス発生量	万t	9.2 (R5年度)	9.2 (R4年度)	-	-



北群馬・渋川、多野藤岡地域など、森林資源の豊かな地域で「感じる」「やや感じる」と答えた割合が減少し、「感じない」「あまり感じない」と答えた割合の増加が見られました。民有人工林の間伐等森林整備面積の減少傾向がみられる状況もあり、施策実感に近いと思われます。

指標名	単位	直近の値	前年度掲載値	(参考)	
				直近全国 平均値	全国 順位
民有人工林の整備率	%	45 (R5年度)	44 (R4年度)	-	-
民有人工林の間伐等森林整備面積	ha/年	1,573 (R6年度)	1,922 (R5年度)	-	-
森林環境教育参加者数	人	14,010 (R6年度)	14,789 (R5年度)	-	-

# 1. 19の政策分野と施策実感一覧 (3/3頁)

分野	政策分野ごとの施策実感に関する設問	施策実感	
		R5年度	R6年度
13 観光・コンテンツ	1 魅力ある観光地づくり	50.1	50.7
	2 海外からの観光客にとって魅力的な観光地	57.1	58.6
14 県土整備	1 鉄道・バスなどの公共交通機関の利用しやすさ	30.3	31.9
	2 安全で快適な移動ができる道路空間の整備	41.2	45.7
15 防災・危機管理	1 自然災害への防災・減災対策や火災への防火対策	54.5	55.3
	2 災害時に必要な情報提供を受けられる体制	52.0	53.4
16 教育	1 子どもたちが自分の頭で未来を考え、率先して行動できる力を身につけられる教育	44.2	45.9
	2 教育の充実を図るためのデジタルの活用	50.0	53.0
17 防犯・交通安全・食品衛生	1 治安がよく安心した生活	63.8	64.3
	2 交通事故が少なく安全な生活	49.7	50.3
	3 安心・安全な食品・農畜産物の提供	65.2	65.5
18 国際	1 外国人と日本人が違いを理解し、認め合う暮らし	49.2	48.1
	2 群馬県の魅力の世界への発信	46.6	47.4
19 行財政改革	1 行政手続きのデジタル化	- (※3)	51.2
	2 行政手続きの利便性の向上	- (※3)	48.9
	3 行政と民間が連携・協力する体制	40.9	42.0

※3 令和5年度「行政手続きのデジタル化と、利便性の向上」(44.1) 詳細分析のため、設問分割

■ : 施策実感が高い5項目      ■ : 施策実感が低い5項目

↑ 上昇 : 令和5年度と比較し、令和6年度アンケートでの施策実感が有意に上昇  
 ↓ 下降 : 令和5年度と比較し、令和6年度アンケートでの施策実感が有意に下降

## 分析 (統計的有意差のあった設問のみ)

### 地域別

指標名	単位	直近の値	前年度掲載値	(参考)	
				直近全国 平均値	全国 順位
主要渋滞箇所の対策率	%	21 (R6年度末)	-	-	-
中高生の通学経路における自転車通行空間の整備延長	km	172.4 (R6年度末)	-	-	-
高速交通網を補完する広域道路ネットワークの整備率	%	88 (R6年度末)	88 (R5年度末)	-	-

11地域中9地域の施策実感が前年度よりも上昇しており、県土整備プランに基づき、バイパス整備や歩道整備、舗装補修などを計画的かつ着実に進めてきたことによる効果が現れてきたものと考えられます。

### 年代別

指標名	単位	直近の値	前年度掲載値	(参考)	
				直近全国 平均値	全国 順位
ICTを活用した授業をほぼ毎日行っている教員の割合 ※小中学校対象	%	87.6 (R7年)	74.3 (R6年)	68.2 (R6年)	-
ICTリテラシーが身についたと感じる生徒の割合	%	90.0 (R6年度)	90.5 (R5年度)	-	-

・年代別にみると、20代以下で最も実感が高く、現在の児童生徒の活用状況と自らの在学中の経験を比較して、活用率の上昇を実感しているものと思われます。  
 ・30代から50代にかけても「感じる」+「やや感じる」の回答率が高くなっていますが、保護者の視点から、子どもの年齢が上がるにつれて活用が進んでいることを実感しているものと思われます。

● 前年度から有意に**上昇**した設問は**14項目**

**下降**した設問は**3項目** でした。

※過年度の調査結果報告書では、合計値を全体の回答数から無回答を引いた数で除して算出しています。本調査は標本補正を行っており、小数点以下を四捨五入していることから、「感じる」から「感じない」の回答数と無回答の合計値と全体の回答数が一致しない場合があり、過年度の調査結果報告書と平均得点が一致しない場合があります。

# 地域政策 (移住、共助)

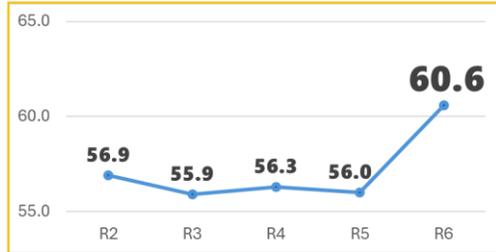
## 1. 背景・これまでの取組

人口減少が深刻化していく中、国では、人口減少に歯止めをかけ、東京圏への一極集中を是正するため、地方創生を掲げ、地方への移住を促進してきました。群馬県においても「ぐんま暮らしのブランド化」を掲げ、県全域を対象に移住・定住を促進するとともに、持続可能な地域づくりのため、市町村の地域課題解決の取組や地域コミュニティ、地域づくり団体の活動を支援してきました。

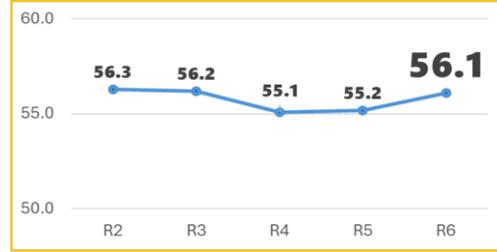
## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

設問  
〔 近隣住民同士が困ったときに  
助け合える地域環境 〕



設問  
〔 移住者を受け入れる土壌 〕



## 3. 今後の取組方向

- 豊かな自然や文化など、群馬県の強みを生かしながら、さらなる移住促進に取り組むとともに、地域の多様な主体の活動を支援し、住民が地域づくり活動に積極的に参加する機運醸成を図ります。
- 市町村の地域課題解決に向けた取組を支援し、地域コミュニティの育成等を推進します。

# スポーツ (取組環境、観戦機会)

## 1. 背景・これまでの取組

本県では、「県民誰もがスポーツによって、自己実現を図り、健康で活力ある群馬県を創生する」を基本理念とした新たな群馬県スポーツ推進計画（令和3～7年度）を策定しました。計画では、スポーツによって、健康増進・生きがいがづくり、共生社会の推進、活力ある地域創生、感動の創出と誇りの醸成を実現することを政策目標に掲げ、各種施策に取り組んでいます。

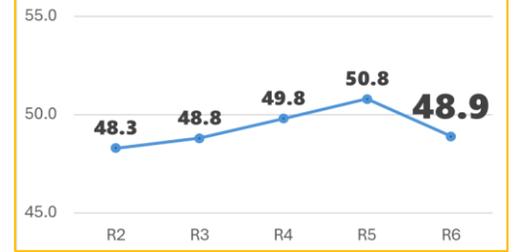
## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

設問  
〔 運動やスポーツに取り組む  
ことができる環境 〕



設問  
〔 運動やスポーツを  
観戦する機会 〕



## 3. 今後の取組方向

- 中長期的視点に立ったスポーツ施設の計画的な整備やバリアフリー化を推進していきます。
- 国民スポーツ大会の開催準備等を通じたスポーツ参加の機運醸成など、運動機会の提供を検討していきます。
- パブリックビューイングや、選手による子ども向けスポーツ教室の実施などにより、プロスポーツチームに関心を持つ機会を創出し、観戦につながるよう取り組みます。

# 文化（歴史文化への誇り、芸術鑑賞、文化活動への参加）

## 1. 背景・これまでの取組

「誰もがクリエイティブにオリジナルな生き方ができる「ぐんまスタイル」の創造」を基本理念とした「新・群馬県文化振興指針」を策定し、「文化を担う人づくり」「ボーダレスな地域創造」「新たな価値の創出」の3本柱で文化振興に取り組んでいます。

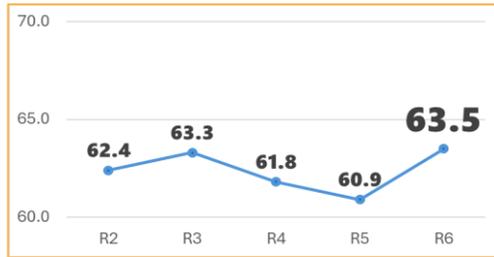
また、文化財保護行政の基本方針となる「群馬県文化財保存活用大綱」に基づき、群馬県の貴重な遺産である文化財の保存・活用の推進や、市町村への支援等に取り組んでいます。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0

(前年度 49.4)

設問  
群馬の歴史文化への誇り



設問  
芸術を鑑賞したり、文化活動に参加できる場



県立歴史博物館国宝展示室



群馬交響楽団

## 3. 今後の取組方向

- ・ アートを活用した地域振興若手アーティストの発掘・育成や子どもがアートに触れる環境を整備します。
- ・ 温泉文化のユネスコ無形文化遺産登録推進日本固有の文化である「温泉文化」を次代へ継承するため、登録を推進します。
- ・ 文化財の保存・活用を推進するため、指定・登録制度の適正な運用及び、市町村「文化財保存活用地域計画」の作成支援を行います。また、展示・講演会等を実施し、広く情報発信を行います。

# こども（子育て環境）

## 1. 背景・これまでの取組

少子化の進行により、家族形態の変化、子ども・若者の生育環境の変化、人口減少や人口構造の変化がもたらされ、生産活動や社会保障など社会全体に大きな影響を及ぼしています。

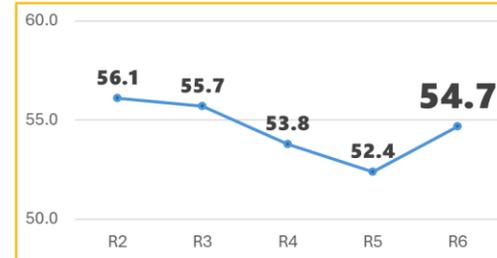
県では、少子化対策、青少年の健全育成、子育て支援、子どもの貧困対策、児童虐待の防止や早期対応など様々な取組を行ってきました。

## 2. 施策実感

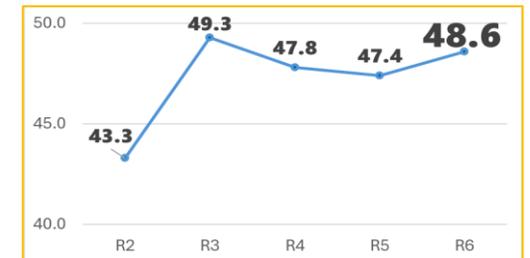
全施策実感のR6平均：51.0

(前年度 49.4)

設問  
安心して子どもを産み育てられる環境



設問  
子育てをしながら働き続けられる環境



保育の様子



子ども食堂の様子

## 3. 今後の取組方向

- ・ 県内どの地域でも一定の母子保健サービスが受けられるよう、こども家庭センターの運営や産後ケアの実施等を引き続き支援します。
- ・ 一時預かり・病児保育等への支援や保育士・保育教諭の確保、子ども食堂等に関する広報や設置団体への支援等を引き続き実施します。

# 生活（個性の発揮、市民活動、消費者の安全・安心）

## 1. 背景・これまでの取組

「県民の誰もが安全・安心に暮らし、希望を持っていきいきと活躍できる社会の実現」を基本理念とした生活分野の最上位計画である「群馬県生活安心いきいきプラン」を策定し、「一人ひとりを尊重する」、「一人ひとりの活動を支える」、「一人ひとりを被害から守る」という方針のもと、NPO等様々な主体との協働による地域づくり施策、消費者施策、人権教育・啓発施策、男女共同参画施策等に取り組んでいます。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

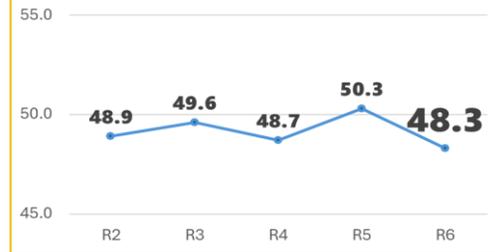
### 設問

社会のあらゆる分野で個性と能力を発揮



### 設問

ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会



### 設問

消費者としての安心・安全



## 3. 今後の取組方向

- 一人ひとりの考え方や生き方が尊重される社会を目指し、ジェンダー平等と多様性などの意識啓発を行うとともに、地域の課題は地域で解決できることを目指し、NPO法人等様々な主体による協働、次世代の担い手育成を通じた若者の市民活動参加を推進します。
- 消費者問題が、複雑化・多様化していく中でも、県民の安心感を維持できるよう、効果的な啓発や情報提供、事業者への行政指導等を進めます。

# 健康（相談・支援体制）

## 1. 背景・これまでの取組

人生100年時代を見据え、誰もがより長く元気に活躍できる「活力ある健康長寿社会」の実現のためには健康寿命の更なる延伸が求められ、国では2040年までに健康寿命を男女ともに3年以上延伸し75歳以上とする目標を立てています。本県でも群馬県健康増進計画「元気県ぐんま21（第3次）」に基づき、2031年までに男性73.95年以上、女性77.08年以上を目標とし、健康寿命延伸対策を強化し推進します。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

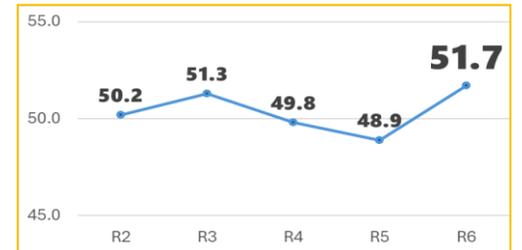
### 設問

健診や生活習慣病対策など相談や指導を受けられる環境



### 設問

自主的な健康づくりを促すための支援



## 3. 今後の取組方向

- 日常生活において手軽に健康づくりに取り組めるよう、県公式アプリ「G-WALK+（ジーウォークプラス）」を活用した取組を推進します。
- 企業等と連携し、食塩摂取量の減少等に向けた「健康的な食環境づくり」を進め、自然に健康になれる環境整備に取り組みます。

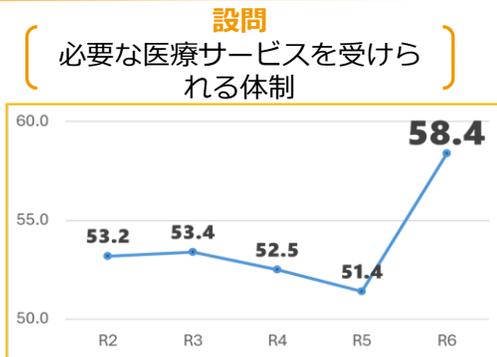
# 医療（医療サービス体制、救急医療体制）

## 1. 背景・これまでの取組

高齢化の進展や人口減少により、地域の医療ニーズは今後も絶えず変化することが見込まれます。医師などの医療資源が限られる中、医療ニーズの変化に対応しつつ、誰一人取り残さずに必要な医療が切れ目なく提供できる環境づくりが求められており、県では、これらを実現するため、保健医療計画や地域医療構想を策定し、関係団体と連携し必要な施策に取り組んでいます。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)



## 3. 今後の取組方向

- 限りある医療資源を効率的、効果的に活用し、地域において急性期から在宅医療まで質の高い医療サービスを切れ目なく提供するため、保健医療計画や地域医療構想に基づく施策を引き続き推進します。
- 医師総数の確保と併せ、医師の地域偏在や診療科偏在の解消を推進します。

# 福祉（介護支援体制、悩み等の相談体制）

## 1. 背景・これまでの取組

県では、誰もがいきいきと心豊かに日常生活を営み、社会活動を行うことができる社会の実現を目指し、人々の意識や施設等のバリアフリー化などに取り組んでいます。

また、全市町村で地域包括ケアシステムの体制は整備されましたが、地域ごとの取組状況は多様であり、それぞれの強み・弱みがあるため、全体のボトムアップを図る必要があります。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)



## 3. 今後の取組方向

- 現役世代を含む幅広い世代が、介護や支援が必要になっても住み慣れた地域で安心して生活することができるよう、地域包括ケアシステムの深化に向けた市町村の取組を支援するほか、事業者や関係団体等の取組を支援します。
- 各種相談機関の周知と利便性の向上に努めます。

# 環境（再生可能エネルギー、食品ロス）

## 1. 背景・これまでの取組

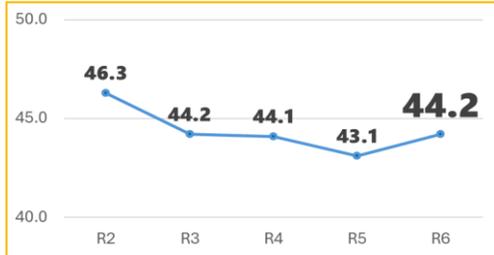
県では、温室効果ガス排出量「ゼロ」や食品ロス「ゼロ」を含む、2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ」を全国で初めて宣言し、再エネ導入支援や脱炭素経営の促進、食材の使い切り・食べ残し削減の促進などの取組を進めています。さらに令和7年3月には、県内でのグリーンイノベーション創出のために民間投資を呼び込む観点から、高い再エネ導入目標に加え産業分野の将来像とそこに向けた戦略を定めた「グリーンイノベーション群馬戦略2035」を策定しました。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

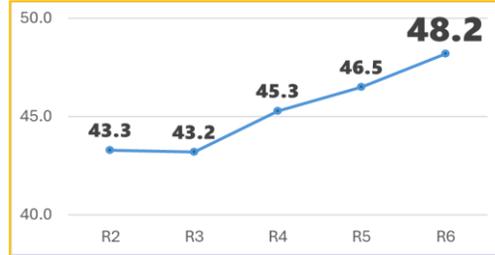
### 設問

再生可能エネルギーの普及や利活用



### 設問

食品ロスを減らすための行動の定着



## 3. 今後の取組方向

### 【再生可能エネルギーの普及・利活用について】

- 客観的指標を高めていくため、引き続き県民や県内事業者向けの補助金や低利融資等の支援策により、住宅や工場・事業所等への再生可能エネルギー設備の導入拡大を図ります。
- 県有施設における再生可能エネルギー設備の導入やEVカーシェアリング実証実験など、県が率先して2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進を図ります。

### 【食品ロス対策について】

- 少量メニューの提供、食べ残し持ち帰り希望者への対応等、食品ロス削減に取り組む飲食店、宿泊施設、食料品小売店を登録する「ぐんま食品ロス削減推進店」の登録店数の増加、周知に努めます。

# 森林・林業（県産木材の活用、森林の管理・利用）

## 1. 背景・これまでの取組

令和3年(2021年)3月に策定した「群馬県森林・林業基本計画2021-2030」の基本方針である「林業の競争力強化」、「森林の新たな価値の創出」、「森林の強靱化」に基づき、「林業・木材産業の自立」によって森林資源と資金が循環する自立分散型社会の実現を目標とし、充実した森林資源を循環利用する持続可能な林業経営の確立に向けて取り組んでいます。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

### 設問

公共施設や住宅などへの県産木材の使用をよく見かける

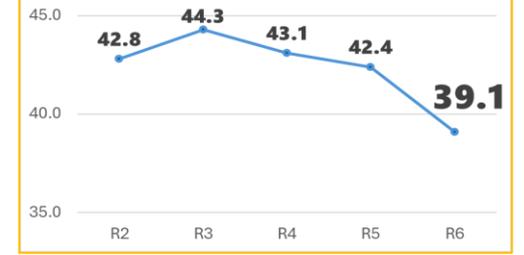


※ 令和5年度「公共施設や住宅などに県産木材がよく使われている」(39.8)  
施策実感を正確に把握するため、設問表現を修正



### 設問

適切な森林の管理や利用



## 3. 今後の取組方向

### 【県産木材等の木材の使用】

- 県が行う公共建築物等の整備にあたっては、原則として県産木材による木造とするよう取り組むとともに、住宅に加えて、民間の非住宅建築物や市町村が建設する公共建築物への県産木材利用も促進します。

### 【森林の管理・利用】

- 健全な森林を維持するため、経営管理が行われていない森林や条件不利な森林の適切な管理と利用を推進します。
- 小中学生への森林環境教育やボランティアによる森林整備など、県民の森林体験を通じた森づくりに取り組みます。

# 農業（担い手の確保、ブランド化）

## 1. 背景・これまでの取組

農業者の高齢化・減少、遊休農地の増加等の課題が存在する中、担い手の確保・育成を進めるとともに、生産基盤の整備や農地の集積・集約化、農業新技術の導入等による生産性や品質の向上を図っています。また、消費者ニーズが多様化する中「G-アナライズ&PRチーム」の分析により得られた県産農畜産物の「強みや特長」を消費者に積極的にPRし、ブランド化に向けた取組を推進しています。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

設問  
農林水産業の担い手の確保・育成



設問  
県産農林水産物のブランド評価（※）



設問  
県産農林水産物の県内外への販路拡大（※）



※ 令和5年度「群馬県産の農林水産物がブランドとして評価、県内外への販路拡大」（50.6）  
詳細分析のため、設問分割



就農相談会



県産ブランドジマズ「超絶サーモンV3」知事発表

## 3. 今後の取組方向

- 本県農業の持続的発展に向けて、生産性と収益性が高く、効率的で安定的な農業経営体を育成するとともに、次世代を担う多様な担い手を確保します。
- 動画配信サイトやSNSを活用した情報発信、飲食店や料理教室との連携等を通じて、幅広い層の認知度向上を図るとともに、販路拡大につなげます。

# 産業経済（収入、職場環境）

## 1. 背景・これまでの取組

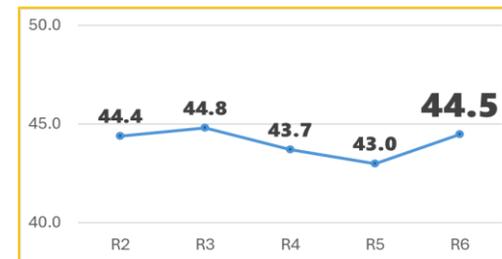
県内企業の人手不足が深刻な状況にある中、女性・障害者・高齢者等、働きたいすべての人が能力を生きし活躍する社会の実現を目指すほか、働きやすい職場環境づくりの促進や県内企業の魅力発信に取り組んでいます。

さらに、物価高騰などの影響を受ける県内企業に対して、足下の経済対策に加え、新ビジネス創出やDX推進支援など、企業の稼ぐ力を向上させる取組も推進しています。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

設問  
働きやすい職場環境



設問  
十分な収入を得ることができる仕事



先進企業の事例共有セミナーの様子



働きやすい職場環境づくりに取り組む先進企業を表彰

## 3. 今後の取組方向

【働きやすい職場環境】

- 誰もが働きやすい職場環境や新しい時代の働き方・組織づくりの普及・啓発に取り組みます。例えば、先進企業の事例を共有するセミナーを開催し、企業が具体的な取組につなげられるような展開をしていくことで、有給休暇の取得率向上や時間外労働時間の削減の促進につながると考えます。

【十分な収入を得ることができる仕事】

- 高付加価値型企業の誘致、県内企業の更なる生産性向上や高付加価値化、そして適正な価格転嫁の促進など、企業の稼ぐ力を向上させる取組を一層進めていきたいと考えます。

# 観光・コンテンツ (魅力的な観光地づくり)

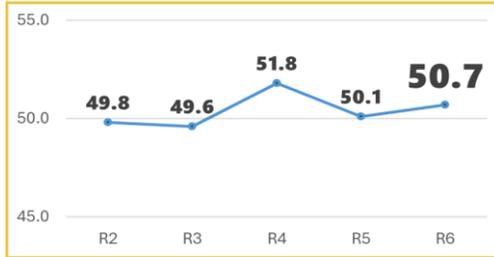
## 1. 背景・これまでの取組

近年、人口減少や少子高齢化による地域経済の縮小化が懸念されている中、「観光」が地方創生の原動力として大きく注目されていることから、群馬県の強みを活かした観光振興を推進し、県民生活の向上と県民が誇れる地域社会の実現を目指してきました。

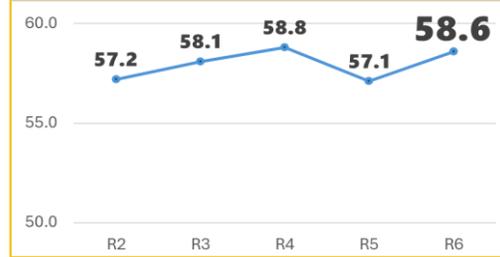
## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

設問  
魅力ある観光地づくり



設問  
海外からの観光客にとって魅力的な観光地



## 3. 今後の取組方向

- 温泉・自然・食・伝統文化などの地域資源を活かし、「リトリートの聖地」として長期滞在型・高付加価値型観光を推進していきます。
- ユニバーサルツーリズム、ペットツーリズムなど、新しい旅行スタイルに対応したコンテンツと受入環境整備を進めていきます。

# 県土整備 (公共交通、道路空間の整備等)

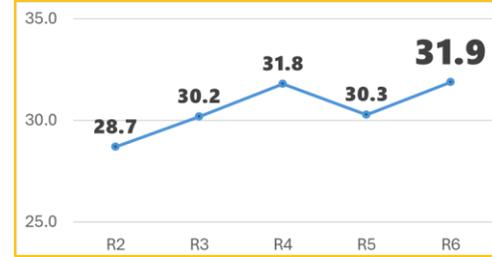
## 1. 背景・これまでの取組

本県における県土整備分野の最上位計画である「ぐんま・県土整備プラン2025」に基づき、「災害レジリエンスNo.1の実現」、「持続可能で効率的なメンテナンス」、「未来につながる魅力的なまちづくり」、「美しく良好な環境の保全」の4つの政策にしっかりと取り組むとともに、公共交通の利便性向上を図るため、「群馬県交通まちづくり戦略」に掲げた施策を推進しています。

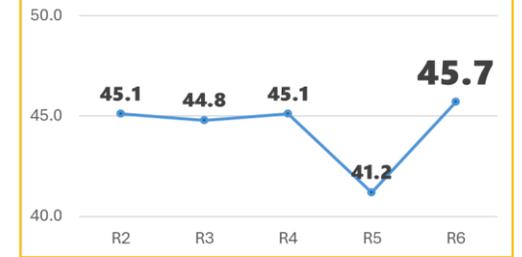
## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

設問  
利用しやすい公共交通機関



設問  
安全で快適な移動ができる道路空間



## 3. 今後の取組方向

- GunMaaS (グンマース) のエリア拡大及びサービスの充実を図ります。
- 物流・人流を支える広域道路ネットワークの構築や現道拡幅等の域内道路整備により、円滑な移動環境の整備を進めます。
- 安全で快適な歩道や自転車通行空間の整備を進めます。

# 防災・危機管理（防災・減災対策、災害時の情報提供等）

## 1. 背景・これまでの取組

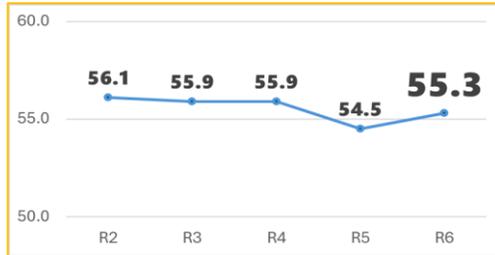
令和元年東日本台風による甚大な被害を踏まえ、令和元年12月に「群馬・気象災害非常事態宣言」を发出、令和4年に『2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」実現条例』を制定しました。令和7年からスタートした「ぐんま・県土整備プラン2025」に基づき、引き続き、気象災害の新たな脅威にしっかりと対応できる「災害レジリエンスNo.1の実現」に向け、流域全体のあらゆる関係者が協働する「流域治水」を推進するとともに、「自らの命は自らが守る」という県民の防災意識の醸成に向けた取組を推進しています。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

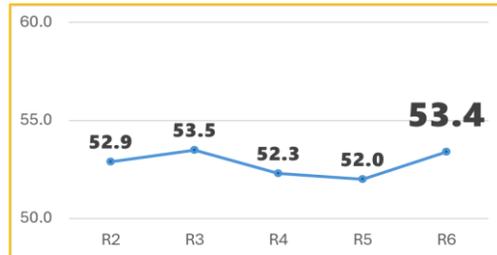
### 設問

自然災害への防災・減災対策  
や火災への防火対策



### 設問

災害時に必要な情報提供  
を受けられる体制



## 3. 今後の取組方向

- 引き続き「災害レジリエンスNo.1の実現」に向け、市町村、民間企業や県民等との連携・共創によるオール群馬での防災・減災対策を加速させます。
- 能登半島地震を踏まえた孤立集落対策などの事前防災を推進します。
- 防災Xなどを活用した災害情報発信を推進します。

# 教育（自ら行動できる力を育む教育、デジタル活用）

## 1. 背景・これまでの取組

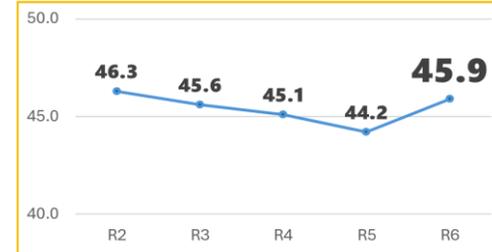
「群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）」に掲げる「エージェンシー（人が生まれながらにもっている、自分と社会をより良くしようとする意志、原動力）を発揮する自律した学習者の育成」に向けて、子どもたちの主体性を育む教育を推進しています。  
また、「教育イノベーション」を推進し、ICTの更なる利活用の推進、教職員のICTスキルの向上、校務のDX化等に取り組んでいます。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

### 設問

自分の頭で未来を考え、率先して行  
動できる力を身につけられる教育



### 設問

教育の充実を図るための  
デジタルの活用



## 3. 今後の取組方向

- 予測困難な時代の中で生きる力を育むため、認知能力（学力のような数値化できる力）に加えて、非認知能力の育成を推進します。
- 今後も、ICTの効果的・効率的な活用を通じた、各教科等の目標に迫る授業実践・研究を推進していきます。

# 防犯・交通安全・食品衛生 (治安、交通事故、安全・安心な食品)

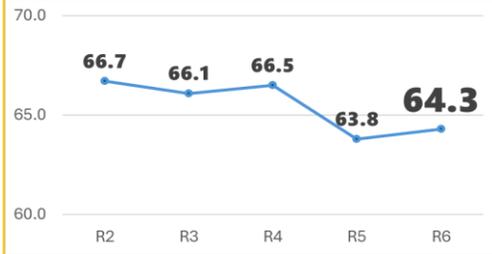
## 1. 背景・これまでの取組

- 本県の刑法犯認知件数は、令和4年から3年連続で増加し、令和6年は14,593件（前年比+1,267件）と増加傾向が続いているため、関係機関・団体等と連携し、発生状況に応じて各種対策を実施しています。
- 交通人身事故発生件数及び死者数は、様々な施策の推進により、減少傾向にあります。
- 誰もが安心できる食生活の実現を目指し、食品の安全性の確保などに取り組んでいます。

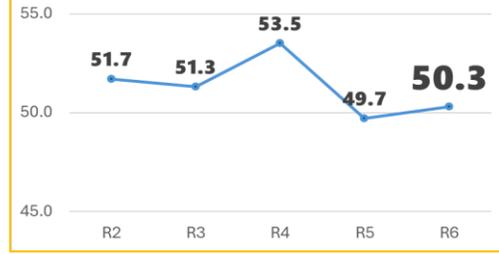
## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

設問  
治安がよく安心した生活



設問  
交通事故が少なく安全な生活



設問  
安心・安全な食品・農畜産物の提供



食品安全検査の様子

交通安全運動出動式

## 3. 今後の取組方向

- 安全・安心を実感できる群馬県の実現に向け、官民一体となって諸対策を推進します。
- 交通事故のない社会の実現と県民一人一人が安全で安心して暮らすことができる「交通安全県・群馬」の確立を目指し、各種交通安全対策に取り組めます。
- 食品の安全・安心に関しては、科学的知見に基づく安全対策を実施し、リスクコミュニケーションに取り組んでいきます。

# 国際 (多文化共生・共創、魅力の発信)

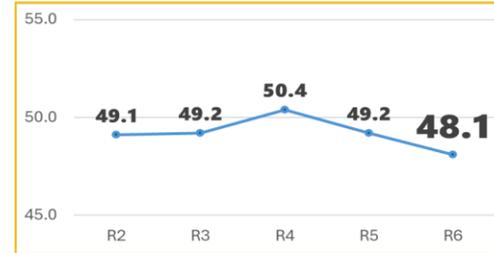
## 1. 背景・これまでの取組

グローバル化の急速な進展への対応や多文化共生・共創社会の実現のため、地域外交の推進や県民の国際理解を促す施策を実施してきました。令和3年4月には全国で初めて「多文化共創」を盛り込んだ「群馬県多文化共生・共創推進条例」を施行しました。また、群馬の魅力や優れたコンテンツの情報発信や外国人観光客の受入環境整備などにも取り組んでいます。

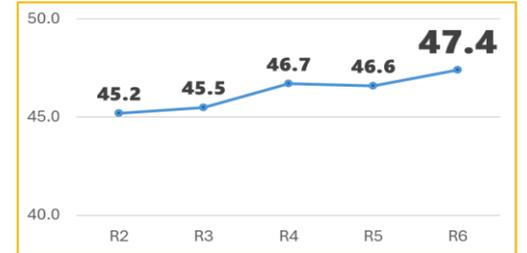
## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

設問  
外国人と日本人が違いを理解し、認め合う暮らし



設問  
群馬県の魅力の世界への発信



ベトナム チン首相との会談

からっかぜパーク多文化共生イベントの様子

## 3. 今後の取組方向

- 「多文化共生・共創条例」に基づき、国籍や民族等の異なる県民が多様性を認め合い、安心して暮らせる実感を持てる地域となるよう、企業には外国人材が働きやすい環境整備支援、外国人材には多言語情報発信などの取組を進めます。
- 知事のトップ外交などを通じ、産業や観光など各分野の群馬の魅力や強みを世界に発信しています。こうした取組をさらに強化し「世界に選ばれる群馬県」を目指します。

# 行財政改革（行政のデジタル化、官民共創）

## 1. 背景・これまでの取組

人口減少・大規模災害などの社会変革と技術革新を迎え、県民生活が大きく変化する中で、行政分野にデジタル技術を取り入れることで、業務効率化を進めるとともに、県民サービスの向上に取り組んでいます。また、県民ニーズや社会課題が多様化・複雑化する中で、限られた人員や財源で持続的な公共サービスの提供を行うため、官民が多様な分野で連携して様々な課題の解決を目指し、官民共創を推進しています。

## 2. 施策実感

全施策実感のR6平均：51.0  
(前年度 49.4)

### 設問

行政手続きのデジタル化  
(※)

### 設問

行政手続きの利便性向上  
(※)

### 設問

行政と民間が連携・協力  
する体制

施策実感

51.2  
(前年度 -)

施策実感

48.9  
(前年度 -)



※ 令和5年度「行政手続きのデジタル化と、利便性の向上」(44.1)  
詳細分析のため、設問分割

LOGOフォーム

ぐんま電子申請受付システム



NETSUGEN (※) でのセミナー開催  
※群馬県庁32階にある官民共創スペース

## 3. 今後の取組方向

- 質の高い行政サービスを持続的に提供するため、あらゆる分野においてデジタル技術の更なる活用を推進し、業務の効率化と県民の利便性向上に取り組んでいきます。
- 官民共創については、多岐にわたる分野で様々な主体と協力関係を構築し、新たなサービスや付加価値の創出を図ることで、持続可能で活力ある公共づくりを進めます。

## 参考

### 幸福とコミュニティ - 共感と共創の幸福 -

持続可能な自立分散型の社会とするための「官民共創コミュニティ」（2ページ参照）は、県民の幸福度向上のために重要な意味を持ちます。

官民共創コミュニティでは多様な参加者が集い交流を行うことで、そこから生まれる共感や「ありがとう」と言い合える関係性の中で自分の居場所を見つけることができれば、幸福の前提として大切な安心感を得ることができるでしょう。

さらに、社会課題の解決やイノベーションといった共創を通じて、「やってみよう」というチャレンジ精神で共創のプロセスに関わり、何事かを成し遂げたときには、何にも代えがたい達成感を得ることができるでしょう。

群馬県では、県庁32階にある「NETSUGEN」を始めとした、行政と民間が連携・協力できる場の創出にも取り組んでいます。

官民共創コミュニティは、年齢や性別、国籍や障害の有無などにかかわらず、多様な住民が主体的に参加し、誰一人取り残されることなく幸福を感じられるコミュニティです。



「官民共創コミュニティ」の実現

分野	政策分野ごとの施策実感に関する設問内容
1 地域政策	1 近隣住民同士が困ったときには助け合うことができると感じますか 2 移住者を受け入れる土壌があると感じますか
2 スポーツ	1 運動やスポーツに取り組むことができると感じますか 2 運動やスポーツを観戦する機会が充実していると感じますか
3 文化	1 群馬の歴史文化（古墳・埴輪・世界遺産等）に誇りを感じますか 2 芸術を鑑賞したり、文化活動に参加できる場が整っていると感じますか
4 こども	1 安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると感じますか 2 子育てをしながら働き続けられる環境が整っていると感じますか
5 生活	1 性別や年齢、障害の有無、国籍などにとらわれず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できていると感じますか 2 ボランティアや市民活動に取り組みやすいと感じますか 3 消費者としての安心・安全が図られていると感じますか
6 健康	1 健診や生活習慣病対策など、必要な時は健康的な生活を送るための相談や指導を受けられる環境が整っていると感じますか 2 自主的な健康づくりを促すための支援が充実していると感じますか
7 医療	1 必要な医療サービス（在宅医療なども含む）を受けられる体制が整っていると感じますか 2 救急医療体制が整っていると感じますか
8 福祉	1 介護や障害などで支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境があると感じますか 2 悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境が整っていると感じますか
9 環境	1 地球温暖化防止のため再生可能エネルギー（太陽光発電や水力発電など）の普及や利活用がされていると感じますか 2 ふだんの暮らしの中で食品ロスを減らすための行動（期限が近い商品の購入など）が定着していると感じますか
10 森林・林業	1 県産材等の木材が使われた公共施設や住宅などをよく見かけるようになったと感じますか 2 森林の管理や利用が適切にされていると感じますか

分野	政策分野ごとの施策実感に関する設問
11 農業	1 農林水産業の担い手の確保・育成が十分に行われていると感じますか 2 群馬県産の農林水産物がブランドとして評価されると感じますか 3 群馬県産の農林水産物を県内外のスーパーや飲食店等でよく見かけるようになったと感じますか
12 産業経済	1 群馬県内の企業や職場では、働きやすい職場環境が整備されていると感じますか 2 群馬県には、十分な収入を得ることができる仕事があると感じますか
13 観光・コンテンツ	1 魅力ある観光地づくりが進んでいると感じますか 2 群馬県には、海外からの観光客にとって魅力的だと思う観光地があると感じますか
14 県土整備	1 鉄道・バスなどの公共交通機関が利用しやすいと感じますか 2 自動車、自転車、徒歩等により、安全で快適な移動ができるよう整備されていると感じますか
15 防災・危機管理	1 地震、豪雨、暴風、火山噴火などの自然災害への防災・減災対策や火災への防火対策が進んでいると感じますか 2 災害時に必要な情報提供を受けられると感じますか
16 教育	1 子どもたちが自分の頭で未来を考え、率先して行動できる力を身につけられる教育がされていると感じますか 2 教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組がされていると感じますか
17 防犯・交通安全・食品衛生	1 治安がよく安心して生活できると感じますか 2 交通事故が少なく安全に生活できると感じますか 3 安心・安全な食品・農畜産物が提供されていると感じますか
18 国際	1 外国人と日本人が国籍・民族・文化の違いを理解し、認め合って暮らすことができていると感じますか 2 群馬県の文化、産業、観光などの魅力が広く世界に発信され、認められていると感じますか
19 行財政改革	1 行政手続きはデジタル化されていると感じますか 2 行政手続きは利便性が高まっていると感じますか 3 新たな価値やビジネスを創出するために、行政と民間が連携・協力する体制が整っていると感じますか

# 第3部

データ編

写真：群馬県の魅力を発信するSNS投稿事業「ぐんま応援びと」  
@antonio\_keusagiさん（Instagram）作「紅葉のアプトの道」

 めがね橋（安中市）

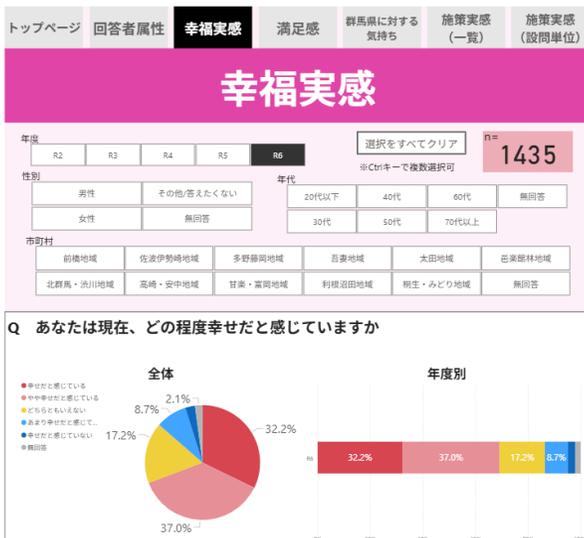
### 3.1 属性別アンケート結果一覧

各属性別のアンケート結果（Power BI）については、下記の二次元コードまたはリンクからご覧ください。

※公開にあたって、個人が特定されないよう属性情報の一部を加工・削除しています。

### 群馬県 県民幸福度アンケート 調査結果

#### 掲載例



### 3.2 客観的指標一覧

客観的指標の一覧については、下記の二次元コードまたはリンクからご覧ください。

[【客観的指標一覧】令和7年度群馬県幸福度レポート.pdf \(gunma-v.jp\)](#)



#### ページ例

客観的指標一覧

第2部で使用した「客観的指標」に加え、参考となる指標を掲載します。  
直近の値はR7.10月末時点のものです。

政策分野	指標名	3つの幸福	総合評価	単位	直近の値	前年度レポート掲載値	出典	直近全国平均値	全国順位
1. 地域政策	移住者数	有米	○	人	1,560 (R6年度)	1,479 (R5年度)	県からの移住者数に関する調査 (群馬県から移住し、県外に定住者流産)	-	-
	地域おこし協力隊員の任期満了後の定住率	一人		%	67.9 (R7年4月1日)	66.1 (R6年4月1日)	地域おこし協力隊等に関する調査 (群馬県地域政策課)	-	-
	勤労者ボランティア活動参加比率	一人		%	更新なし	15.5 (R5年)	社会生活基本調査 (総務省)	-	-
	地域連携組織数	社会	○	団体	88 (R6年度)	92 (R5年度)	地域連携組織の形成及び持続的発展に関する調査 (群馬県)	-	-
	認可地域団体数	社会	○	団体	813 (R7年4月1日)	816 (R6年4月1日)	群馬による団体実態調査 (群馬県)	174 (R6年度)	36位
	地域ビジネスから生まれた共働きの職数 (累計)	有米	○	件	50 (R7年10月1日)	28 (R6年7月1日)	群馬県職機企業連携推進事業調査	-	-
	地域企業員による市町村等の地域課題解決の支援件数	社会		件	283 (R6年度)	269 (R5年度)	地域企業員の活動状況と今後の調査 (群馬県地域政策課)	-	-
2. スポーツ	アスリートチームの1試合あたり平均観客動員数 (4チーム)	一人	○	人	10,727 (2023シーズンの観客動員数) (4チーム)	9,758 (2022シーズンの観客動員数) (4チーム)	各リーグによる公式発表 (NPO)	-	-
	体育・スポーツ施設数 (人口10万人あたり)	一人		件/人口10万人	85.2 (R6年)	88.8 (R3年)	社会教育調査 (文部科学省)	-	-

作成

群馬県 知事戦略部 戦略企画課

令和8年2月

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1  
E-mail: keikaku@pref.gunma.lg.jp